<u>CLUSTERPRO® X SingleServerSafe 4.0</u> <u>for Windows</u>

操作ガイド

2018.09.14 第2版



改版履歴

版数	改版日付	内容
1	2018/04/17	新規作成
2	2018/09/14	内部バージョン 12.01 に対応

© Copyright NEC Corporation 2018. All rights reserved.

免責事項

本書の内容は、予告なしに変更されることがあります。

日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任をおいません。 また、お客様が期待される効果を得るために、本書に従った導入、使用および使用効果につきましては、 お客様の責任とさせていただきます。

本書に記載されている内容の著作権は、日本電気株式会社に帰属します。本書の内容の一部または全部を日本電気株式会社の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは禁止されています。

商標情報

CLUSTERPRO[®]は、日本電気株式会社の登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows Server、Internet Explorer、Azure、Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Oracle、Oracle Database、Solaris、MySQL、Tuxedo、WebLogic Server、Container、Java およびすべ ての Java 関連の商標は、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国に おける商標または登録商標です。

WebOTX は、日本電気株式会社の登録商標です。

F5、F5 Networks、BIG-IP、およびiControl は、米国および他の国におけるF5 Networks, Inc. の商標また は登録商標です。

VMware、vCenter Server、vSphere は、米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。

IBM、DB2、WebSphere は、International Business Machines Corporationの米国およびその他の国に おける商標または登録商標です。

PostgreSQL は、PostgreSQL Global Development Group の登録商標です。

本書に記載されたその他の製品名および標語は、各社の商標または登録商標です。

目次

はじめに		vii
対象読者と目的	約	vii
本書の構成 …		vii
本書で記述され	れる用語	viii
CLUSTERPR	OX SingleServerSafe マニュアル体系	ix
本書の表記規	則	Х
最新情報の入	手先	xi
セクション	マネージャ操作リファレンス	13
第 1 章 V	VebManager の機能	15
WebManager	を起動する	
WebManager	とは	
WebManager	を起動するには	17
WebManager	の画面	
WebManager	のメイン画面	
WebManager	の動作モードを切り替えるには	
WebManager	でアラートの検索を行うには	
WebManager	を使用してログを収集するには	
WebManager	の情報を最新に更新するには	
WebManager	の画面レイアウトを変更するには	
WebManager	から時刻情報を確認するには	
WebManager	から統合マネーシャを起動するには	
WebWanager	「からサービ人の操作を行うには	
Webivianager	からフィセンスを確認するには	
WebManager	のフリーレユー じ合オ ノンエクトの状態を唯認するには	
Webivianager	から夫1」 (この保) F	
WebManager	のリストレユーで仏恐を唯認りる	
WebManager	のリストビューで生体の詳細情報をリスト衣小りるには	
WebManager	のリストビューでサーバ状態の視安を確認するには	
WebManager	のリストビューでチータ全体の状能を確認するには	
WebManager	でアラートを確認する	
アラートビュー	Cソノ 1 と 唯 10 9 0	۲۲. ۸7
アラートビュー	の操作	
WebManager	◇☆ 17 を毛動で停止/開始する	50
WebManager	を1 切 ()	
WebManager	の接結判阻。撮作制限を設定する	
使 用 制限の 種	の接続前政、保FF前政を改定する	
セクション	コマンドリファレンス	53
第2章 (CLUSTERPRO X SingleServerSafe コマンドリファレンス	55
コマンドラインガ	から操作する	
コマンド一覧		
状態を表示する	る (clpstat コマンド)	
サービスを操作	まする (clpcl コマンド)	
サーバをシャッ	トダウンする (clpstdn コマンド)	
グループを操作	乍する (clpgrp コマンド)	
ログを収集する	5 (clploacc コマンド)	00 AQ

タイフを指定したロクの収集 (-t オブション)	
ログファイルの出力先 (-o オプション)	72
収集するイベントログの種類の指定 (evt オプション)	73
緊急OSシャットダウン時の情報採取	73
構成情報の反映、バックアップを実行する (clpcfctrl コマンド)	74
構成情報を反映する (clpcfctrlpush)	74
構成情報をバックアップする (clpcfctrlpull)	77
タイムアウトを一時調整する (clptoratio コマンド)	79
ログレベル/サイズを変更する (clplogcf コマンド)	82
ライセンスを管理する (clplcnsc コマンド)	90
メッセージを出力する (clplogcmd コマンド)	95
モニタリソースを制御する (clpmonctrl コマンド)	97
グループリソースを制御する (clprscコマンド)	101
CPUクロックを制御する (clpcpufreg コマンド)	104
クラスタ間連携を行う (clptrnreg コマンド)	
クラスタサーバに処理を要求する (clprexec コマンド)	109
再記動回数を制御する(cloreactrl コマンド)	113
リソース使用量を予測する (clopregian ニマンド)	115
プロセスの健全性を確認する (clobealthchk コマンド)	120
クラスタ外からの操作による OS シャットダウン時の動作を設定する (clostdocof コマンド)	120
セクション III リリースノート	125
第 3 章 注意制限事項	127
第 3 章 注意制限事項	127 128
第3章 注意制限事項 システム運用後	127
第3章 注意制限事項 システム運用後 回復動作中の操作制限 コマンドリファレンスに記載されていない実行形式ファイルやスクリプトファイルについて	127 128 128 128
第3章 注意制限事項 システム運用後 回復動作中の操作制限 コマンドリファレンスに記載されていない実行形式ファイルやスクリプトファイルについて	127
第3章 注意制限事項 システム運用後	127 128 128 128 128 128
 第3章 注意制限事項 システム運用後	127 128 128 128 128 128 129
第3章 注意制限事項	127 128 128 128 128 128 129 129
第3章 注意制限事項	127 128 128 128 128 128 129 129 129 129
第3章 注意制限事項	127 128 128 128 128 128 129 129 129 129 129
第3章 注意制限事項	127 128 128 128 128 128 129 129 129 129 129 129 129 129 129
第3章 注意制限事項	127 128 128 128 128 128 129 129 129 129 129 130 130
第3章 注意制限事項	127 128 128 128 128 128 129 129 129 129 129 129 130 130
第3章 注意制限事項	127 128 128 128 128 128 129 129 129 129 129 129 129 130 130 131
 第3章 注意制限事項. システム運用後	127 128 128 128 128 128 129 129 129 129 129 130 130 131
 第3章 注意制限事項 システム運用後	127 128 128 128 128 128 129 129 129 129 129 129 130 131 133 134
第3章<注意制限事項 システム運用後 回復動作中の操作制限 コマンドリファレンスに記載されていない実行形式ファイルやスクリプトファイルについて CLUSTERPRO Disk Agent サービスについて Windows Server 2012 以降の環境におけるユーザーアカウント制御の影響について アプリケーションリソース / スクリプトリソースの画面表示について ホットワークインターフェイスカード (NIC) が二重化されている環境について CLUSTERPRO のサービスのログオンアカウントについて CLUSTERPRO の常駐プロセスの監視について JVM 監視リソースについて システム監視リソースについて 「対話型サービスダイアログの検出]ポップアップ表示について. WebManagerについて イベントログ、アラートメッセージ 付録	127 128 128 128 128 128 129 129 129 129 129 130 131 133 134 137
第3章<注意制限事項 システム運用後 回復動作中の操作制限 コマンドリファレンスに記載されていない実行形式ファイルやスクリプトファイルについて CLUSTERPRO Disk Agent サービスについて Windows Server 2012 以降の環境におけるユーザーアカウント制御の影響について アプリケーションリソース / スクリプトリソースの画面表示について ネットワークインターフェイスカード (NIC) が二重化されている環境について CLUSTERPRO のサービスのログオンアカウントについて CLUSTERPRO の常駐プロセスの監視について JVM 監視リソースについて システム監視リソースについて ド諸型サービスダイアログの検出]ポップアップ表示について WebManagerについて イベントログ、アラートメッセージ 付録	127 128 128 128 128 128 129 129 129 129 130 131 133 134 137

はじめに

対象読者と目的

『CLUSTERPRO[®] X SingleServerSafe 操作ガイド』は、システム導入後の保守・運用を行うシステム管理 者を対象読者とし、CLUSTERPRO X SingleServerSafe の操作方法について説明します。構成は、セク ション I からセクション Ⅲ までの3部に分かれています。

本書の構成

セクション | マネージャ操作リファレンス

第1章 「WebManager の機能」: WebMangerの使用方法および関連情報について説明します。

セクション II コマンドリファレンス

- 第2章 「CLUSTERPRO X SingleServerSafe コマンドリファレンス」: CLUSTERPRO X SingleServerSafeで使用可能なコマンドについて説明します。
- セクション III リリースノート
- 第3章 「注意制限事項」: 既知の問題と制限事項について説明します。
- 第4章 「エラーメッセージー覧」: CLUSTERPRO X SingleServerSafe 運用中に表示されるエラー メッセージの一覧について説明します。

付録

付録 A 「索引」

本書で記述される用語

本書で説明する CLUSTERPRO X SingleServerSafe は、クラスタリングソフトウェアである CLUSTERPRO X との操作性などにおける親和性を高めるために、共通の画面・コマンドを使用しています。 そのため、一部、クラスタとしての用語が使用されています。 以下ように用語の意味を解釈して本書を読み進めてください。

用語	説明			
クラスタ、クラスタシステム	CLUSTERPRO X SingleServerSafe を導入した単サーバのシステム			
クラスタシャットダウン/リブート	CLUSTERPRO X SingleServerSafe を導入したシステムのシャットダウ			
	ン、リブート			
クラスタリソース	CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用されるリソース			
クラスタオブジェクト	CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用される各種リソースのオブ			
	ジェクト			
フェイルオーバグループ	CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用されるグループリソース(ア			
	プリケーション、サービスなど)をまとめたグループ			

CLUSTERPRO X SingleServerSafe マニュアル体系

CLUSTERPRO X SingleServerSafe のマニュアルは、以下の 4 つに分類されます。各ガイドのタイトルと 役割を以下に示します。

『CLUSTERPRO X SingleServerSafe インストールガイド』 (Installation Guide)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe を使用したシステムの導入を行うシステムエンジニアを対象読者とし、 CLUSTERPRO X SingleServerSafe のインストール作業の手順について説明します。

『CLUSTERPRO X SingleServerSafe 設定ガイド』(Configuration Guide)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe を使用したシステムの導入を行うシステムエンジニアと、システム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO X SingleServerSafeの構築作業の手順について説明します。

『CLUSTERPRO X SingleServerSafe 操作ガイド』(Operation Guide)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe を使用したシステム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO X SingleServerSafe の操作方法について説明します。

『CLUSTERPRO X 統合WebManager 管理者ガイド』 (Integrated WebManager Administrator's Guide)

CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムを CLUSTERPRO 統合WebManager で管理するシステム 管理者、および統合WebManager の導入を行うシステム エンジニアを対象読者とし、統合WebManager を使用したクラスタ システム導入時に必須の事項について、実際の手順に則して詳細を説明します。

本書の表記規則

本書では、「注」および「重要」を以下のように表記します。

注: は、重要ではあるがデータ損失やシステムおよび機器の損傷には関連しない情報を表します。

重要:は、データ損失やシステムおよび機器の損傷を回避するために必要な情報を表します。

関連情報:は、参照先の情報の場所を表します。

また、本書では以下の表記法を使用します。

表記	使用方法	例
[] 角かっこ	コマンド名の前後 画面に表示される語 (ダイアログ ボックス、メニューなど) の前後	[スタート] をクリックします。 [プロパティ] ダイアログ ボックス
コマンドライ ン中の [] 角かっこ	かっこ内の値の指定が省略可能 であることを示します。	clpstat -s[-h host_name]
モノスペース フォント (courier)	パス名、コマンド ライン、システム からの出力 (メッセージ、プロンプ トなど)、ディレクトリ、ファイル名、 関数、パラメータ	c:¥Program files¥CLUSTERPRO
モノスペース フォント太字 (courier)	ユーザが実際にコマンドプロンプト から入力する値を示します。	以下を入力します。 clpcl -s -a
<i>モノスペース</i> フォント (courier) 斜体	ユーザが有効な値に置き換えて入 カする項目	clpstat -s [-h <i>host_name</i>]

最新情報の入手先

最新の製品情報については、以下のWebサイトを参照してください。

https://jpn.nec.com/clusterpro/

セクション 1 マネージャ操作リファレンス

このセクションでは、WebManagerの機能の詳細について説明します。CLUSTERPRO X SingleServerSafe は、クラスタリングソフトウェアである CLUSTERPRO X との操作性などにおける親和 性を高めるために、共通の画面を使用しています。本ガイドでは、CLUSTERPRO X SingleServerSafeに 特化した説明を行っていますので、WebManagerの全体像を理解する際は、CLUSTERPRO X の『リファ レンスガイド』を合わせて参照してください。

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 4.0 にて新規に実装された管理ツール Cluster WebUI の詳細につきましては、Cluster WebUI のオンラインマニュアルをご参照ください。

• 第1章 WebManagerの機能

第1章 WebManager の機能

本章では、WebManager の機能について説明します。

本章で説明する項目は以下のとおりです。

•	WebManager	を起動する・・・・・	16
•	WebManager	の画面	18
•	WebManager	のツリービューで各オブジェクトの状態を確認するには	29
•	WebManager	のリストビューで状態を確認する	39
•	WebManager	でアラートを確認する	47
•	WebManager	を手動で停止/開始する	50
•	WebManager	を利用したくない場合	50
•	WebManager	の接続制限、操作制限を設定する	50

WebManager を起動する

本章で説明する WebManager は、CLUSTERPRO X の WebManager と共通の画面・用 語を使用している部分があります。そのため、一部クラスタとしての用語が使用されています。

CLUSTERPRO X SingleServerSafe は1ノードのクラスタであると解釈して本書を読み進めてください。

WebManager とは

WebManager とは、Web ブラウザ経由で CLUSTERPRO の設定と状態監視、サーバ/グ ループの起動/停止及び、動作ログの収集などを行うための機能です。以下の図に WebManager の概要を示します。



CLUSTERPRO X SingleServerSafe のサーバ上の WebManager サービスは OS の起動と 同時に起動するようになっています。

WebManager を起動するには

WebManager を起動する手順を示します。

- 1. Web ブラウザを起動します。
- 2. ブラウザのアドレス バーに、CLUSTERPRO X SingleServerSafe をインストールした サーバの IP アドレスとポート番号を入力します。

http://192.168.0.1:29003/main.htm



CLUSTERPRO X SingleServerSafeをインストールしたサーバのIPアドレスを指定します。 自サーバの場合は、localhostでも問題ありません。

注: Java Runtime Enviroment Version 9.0 以降では、Java Web Start から WebManager を起動することができます。Java Web Manager を起動する場合は上記 URL の main.htm を main.jnlp に変更して入力してください。

例) http://10.0.0.1:29003/main.jnlp

3. WebManager が起動します。

<i> Clus</i> ter Manager - Internet Explorer		- • •					
Fhttp://192.168.32.229:29003/main.htm ファイル(E) 表示(M) サービス(S) ツール(D) ヘルブ(E)							
							Hétt-ド 「 「 「 ●
server1	クラスタ:server1				詳細情報		
🕈 🖏 server1		S	server1				
Groups	グループステータス						
P Monitors	モニタリソースステータス						
- Selw	userw	正常					
A.T.		1	1				
種類 受信時刻	発生時刻 🔽	サーバ名	モジュール名	イベントロ	メッセージ		
2018/01/16 19:35:01.302 2	018/01/16 19:35:01.302	server1	rm	1501	監視 userw が起動しま… ▲		
2018/01/16 19:34:59.550 2	018/01/16 19:34:59.550	server1	nm	1	サーバserver1が起動し…		
2018/01/16 19:34:55.795 2	2018/01/16 19:34:55.795	server1	pm	501	クラスタザービスは正常…		
2018/01/16 19:34:35.077 2	018/01/16 19:34:35.077	server1	pm	502	クラスタザービスは停止		
2018/01/16 19:34:29:004 2	018/01/16 19:34:29:003	serveri	pm	531	Internalよりクラスタザ		
	1000 125572支援 10100110 11 10100105 100001 100105 1000						

関連情報: WebManager は暗号化通信(HTTPS)を行うことができます。暗号化通信の詳細については、『設定ガイド』を参照してください。暗号化通信を行う場合は下記を入力します。

https://192.168.0.1:29003/main.htm

WebManager の画面

WebManager の画面について説明します。

```
注: WebManager 画面で表示される言語については「クラスタ詳細クラスタ 情報タブ」を参照
してください。
```

WebManager のメイン画面

WebManager の画面は2つのバーと3 つのビューから構成されます。

ファイル	ファイル(E) 表示(Y) サービス(S) ツール(E) ヘルプ(H) ――――							
🚾 servi	er1	グループ名: failover1 ツー	ルバー		言羊糸町惜春報			
r masteria servers		ブロバティ		設定値				
←	Proups	אַעאַר	and and the basis					
	Innitors	くテータス 抜 ご動落みサーバ 。	ピ朝)斉 :enver1					
	L L L L L L L L L L L L L L L L L L L	リソースステータス	iciveri					
"	リービュー 📲	ppli įt	记動済					
	• –							
		リスト	ビュー					
種類	受信時刻	発生時刻 ▼	サーバ名	モジュール名	イベントID			
1	2014/07/07 15:08:32.809	2014/07/07 15:08:32.809	server1	rc	1011 🔄			
()	2014/07/07 15:08:32.700	2014/07/07 15:0 <u>8:32</u> 700 من الم	server1	rm	1501 📱			
()	2014/07/07 15:08:32.049	2014/07/07 15: 🖉 32 049 ۲С -	server1	rc	1010 :=			
	2014/07/07 15:08:32.034	2014/07/07 15:08:32.034	server1	apisv	4330 v			
	2014/07/07 15:08:14.737	2014/07/07 15:08:14.737	server1	rm	1501 🛃			
()	2014/07/07 15:08:11.893	2014/07/07 15:08:11.877	server1	pm	534 c			
()	2014/07/07 15:08:11.831	2014/07/07 15:08:11.831	server1	pm	501 1			
()	2014/07/07 15:08:05.659	2014/07/07 15:08:05.659	server1	pm	502 1			
	004 4/07/07 4 5:00:04 040	204 4/07/07 4 5-00-04 0 40			kcon P			

メニューバー

以下の5つのメニューがあり、各メニューの内容は設定モードと操作・参照モードで異なります。 操作・参照モードのメニュー内の各項目については本章で後述します。

- ◆ ファイル メニュー
- ◆ 表示 メニュー
- ◆ サービス メニュー
- ♦ ツール メニュー
- ◆ ヘルプ メニュー

ツールバー

ツールバーにある 1 つのドロップダウンメニューと 6 つのアイコンをクリックすると、メニュー バーの一部の項目と同じ操作を行うことができます。

アイコン/メニュー	機能	参照先
⚠️操作モード	Webmanagerを操作モードに切り替え ます。[表示] メニューの [操作モード] を選択するのと同じです。	「WebManager の動作モード を切り替えるには」 (20ページ)
▶ 設定モード	WebManagerを設定モード(オンライ ン版Builder)に切り替えます。[表示] メニューの [設定モード] を選択する のと同じです。	「WebManager の動作モード を切り替えるには」 (20ページ)
診療服モード	WebManagerを参照モードへ切り替 えます。[表示] メニューの [参照モー ド] を選択するのと同じです。	「WebManager の動作モード を切り替えるには」 (20ページ)
■検証モード	WebManagerを検証モードへ切り替 えます。[表示] メニューの [検証モー ド] を選択するのと同じです。	「WebManager の動作モード を切り替えるには」 (20ページ)
Ø.	アラート検索を実行します。[ツール] メニューの [アラート検索] を選択する のと同じです。	「WebManager でアラートの検 索を行うには」 (21ページ)
	ログを採取します。[ツール] メニュー の [ログ採取] を選択するのと同じで す。	「WebManager を使用してロ グを収集するには」 (22ページ)
0	リロードを実行します。[ツール] メ ニューの [リロード] を選択するのと同 じです。	「WebManager の情報を最新 に更新するには」 (24ページ)
	オプションを表示します。[ツール] メ ニューの [オプション] を選択するのと 同じです。	「WebManager の画面レイア ウトを変更するには」 (25ページ)
©	時刻情報を表示します。[ツール] メ ニューの [時刻情報] を選択するのと 同じです。	「WebManager から時刻情報 を確認するには」 (25ページ)
•	時刻情報が更新された場合、アイコン が変わります。時刻情報ダイアログを 表示するとアイコンは元に戻ります。	
	統合マネージャを表示します。[ツール] メニューの [統合マネージャ] を選択 するのと同じです。	「WebManager から統合マ ネージャを起動するには」 (27ページ)

ツリービュー

サーバ、グループリソースなどの状態が確認できます。詳しくは 29 ページの「WebManager のツリービューで各オブジェクトの状態を確認するには」を参照してください。

リストビュー

上段には、ツリー ビューで選択したサーバなどの情報が表示されます。下段には、サーバ、 各グループリソースや各モニタリソースの起動・停止状況とコメントが一覧表示されます。また、 右上の [詳細情報] ボタンを選択すると、さらに詳しい情報がダイアログで表示されます。詳し くは 39 ページの「WebManager のリストビューで状態を確認する」を参照してください。

アラートビュー

CLUSTERPRO X SingleServerSafe の動作状況がメッセージとして表示されます。詳しくは 47 ページの「WebManager でアラートを確認する」を参照してください。

WebManager の動作モードを切り替えるには

WebManager には以下の4つの動作モードがあります。

◆ 操作モード

サーバの状態参照と操作の両方が可能なモードです。 [表示] メニューの [操作モード] を選択するか、ツールバーのドロップダウンメニューで [心操作モード] を選択すると操作モードに切り替わります。ただし、WebManager起動時 に参照モード専用のパスワードでログインした場合や、操作制限するように登録されたク ライアントからWebManagerに接続した場合には、操作モードに切り替えることはできま せん。

◆ 参照モード

サーバの状態参照のみ可能で操作ができないモードです。 [表示] メニューの [参照モード] を選択するか、ツールバーのドロップダウンメニューで [2010] 「「参照モード」を選択すると参照モードに切り替わります。

◆ 設定モード

サーバの構築・設定変更が可能なモードです。設定モードのWebManagerをオンライン版 Builder と呼びます。設定モードの動作については『CLUSTERPRO X SingleServerSafe 設定ガイド』を参照ください。

[表示] メニューの [設定モード] を選択するか、ツールバーのドロップダウンメニューで [記設定モード] を選択すると設定モードに切り替わります。ただし、操作制限するように 登録されたクライアントからWebManagerに接続した場合には、設定モードに切り替える ことはできません。

◆ 検証モード

任意のモニタリソースで疑似障害を発生/解除させるためモードです。

[表示] メニューの [検証モード] を選択するか、ツールバーのドロップダウンメニューで [【検証モード] を選択すると検証モードに切り替わります。ただし、操作制限するように 登録されたクライアントから WebManager に接続した場合には、検証モードに切り替え ることはできません。

また、検証モードから、他のモードに切り替えると、「全てのモニタの擬似障害を停止しま すか?」というダイアログが表示されます。「はい」を選択すると、擬似障害発生状態のモ ニタリソースが、全て通常の監視に戻ります。「いいえ」を選択すると、擬似障害発生状態 のモニタリソースは、擬似障害発生状態を維持したまま他のモードに切り替わります。

注: WebManager の [操作モード] [参照モード] [検証モード] でポップアップ画面を表示して いる状態で [設定モード] に切り替えた場合、開いているポップアップ画面は終了します。

ポップアップ画面で実行している操作は継続して実行されます。

WebManager でアラートの検索を行うには

WebManager を使用して、アラートの検索を行うことができます。特定のタイプのアラートのみを参照したい場合などに便利です。

注: アラートログに関しては、47ページの「WebManager でアラートを確認する」も合わせて 参照してください。

アラート検索を行うには、 [ツール] メニューの [アラート検索]、またはツールバーのアラート検索アイコン(20)をクリックします。アラートログの検索条件を設定する画面が表示されます。

 ○ 検索対象とするアラート数を入力してください: ◎ 検索条件選択
 □ アラート種別: 異常 □ サーバ名: □ モジュール名: □ イベントID:
OK キャンセル

指定した数の過去何件分のアラートのみを検索対象としたい場合:

- 1. [検索対象とするアラート数を入力してください]を選択します。
- 2. 検索したいアラートの数を入力し、[OK] をクリックすると、指定した数の過去のアラートが 表示されます。

注:入力可能なアラート件数の最大値は Builder の [クラスタのプロパティ] - [アラートロ グ] - [保存最大アラートレコード数] で設定できます。

検索条件を指定して検索したい場合:

- 1. [検索条件選択]を選択します。
- 2. 各フィールドに検索条件を設定して、検索を実行します。
 - [アラート種別] で、表示したいアラートの種別を選択します。
 - [モジュール名] で、アラートを表示したいモジュールのタイプを入力します。
 - [サーバ名] で、アラートを表示したいサーバを入力します。
 - [イベント ID] に表示したいイベント ID を入力します。
 イベント ID については「第4章 エラーメッセージー覧」を参照してください。
 - イベントの発生時刻で検索条件を絞りこみたい場合は、[開始時刻] と [終了時刻] に 値を入力します。

セクション | マネージャ操作リファレンス

- ページ当たりに表示する検索結果のアラート数を [1 ページ当りの表示アラート数を入力 してください:] で指定して、[OK] をクリックします。検索結果が発生時刻を基準にして、 降順で表示されます。
- **4.** 検索結果が複数ページに表示されている場合は、[前ページ]、[次ページ]、[ジャンプ] ボタ ンをクリックして移動します。

WebManager を使用してログを収集するには

[ツール] メニューの [クラスタログ収集]、またはツールバーのクラスタログ収集アイコン(
)
をクリックすると、[クラスタログ収集] ダイアログボックスが表示されます。

遙 クラスタログ収集	
クラスタログを収集するサーバとバター	ンを選択してください:
サーバ名	パターン
server1	バターン1
OK キャンセル	情報 デフォルト

チェックボックス

ログを収集するサーバを選択します。ログを収集するサーバのチェックボックスをオンにします。

パターン

収集する情報を選択します。ログの収集パターンは、パターン1~4を指定します。

	パターン 1	パターン 2	パターン 3	パターン 4
(1) デフォルト収集情報	0	0	0	×
(2) イベントログ	0	0	0	0
(3) Windows エラーレポート	0	0	0	0
(4) ユーザダンプ	0	0	×	×
(5) 診断プログラムレポート	0	0	×	×
(6) レジストリ	0	0	0	×
(7) スクリプト	0	0	0	×
(8) ESMPRO/AC、ESMPRO/UPSCログ	0	0	0	×
(9) HA ログ	×	0	×	×

(1) ~ (9)の採取内容については、69 ページからの「第 2 章 CLUSTERPRO X SingleServerSafe コマンドリファレンス」の「ログを収集する (clplogcc コマンド)」を参照してください。

[OK] ボタン

ログ収集が開始され [ログ収集進捗] ダイアログボックスが表示されます。

[キャンセル] ボタン

このダイアログを閉じます。

[情報] ボタン

各パターンの情報が表示されます。

[デフォルト] ボタン

サーバ選択とパターン選択を既定値に戻します。

ログ収集が開始されると、下記のダイアログボックスが表示されます。

遙 クラスタログ収集進	捗				×
サーバタ	接続旧アドレス	ステータス	谁捗状況	結果	
server1	127.0.0.1		7%	正常	
	更新	中止	閉じる		

[更新] ボタン

[ログ収集進捗] ダイアログボックスを、最新の状態に更新します。

[中止] ボタン

ログ収集を中止します。

[閉じる] ボタン

[ログ収集進捗] ダイアログボックスを閉じます。ログ収集は継続して動作しています。 この時、タイトルビューの [ログ収集] は [進捗状況] に表示が変わっています。 再度 [ログ収集進捗] ダイアログボックスを表示するには ツールメニューの [進捗状況] をク リックしてください。

ログ収集結果

結果	説明
正常	成功です。
中止	ユーザによってログ収集が中止されました。
パラメータ不正	内部エラーが発生した可能性があります。
送信エラー	接続エラーが発生しました。
タイムアウト	処理にタイムアウトが発生しました。
ビジー	サーバがビジー状態です。
圧縮エラー	ファイル圧縮時にエラーが発生しました。

セクション | マネージャ操作リファレンス

ファイルI/Oエラー	ファイルが存在しません。
空き容量不足	ディスクに空き容量がありません。
その他異常	その他のエラーによる失敗です。

ログ収集が完了すると、ブラウザのダウンロード保存ダイアログボックスが表示されるので、適 当な場所にログをダウンロードしてください。

<u>≰</u> 」保存	×
保存: 📑 Documents	- 6 6 6 8 5
ファイル名: log.cab	
ファイルのタイプ: cabファイル(*.cab)	▼
	保存取消

注: この状態のまま 10 分以上経つと、正常にダウンロードできないことがあります。

注: ログ収集中に、他のモーダルダイアログボックスを表示していると、ログ収集のファイル保 存ダイアログボックスが表示されません。ログ収集のファイル保存ダイアログボックスを表 示するには、他のモーダルダイアログボックスを終了してください。

注: ログファイルサイズが 2GB を超えた場合、圧縮形式の仕様によりログ収集に失敗します。 収集対象のログを調整するか、ログ収集パターンを変更してください。

WebManager の情報を最新に更新するには

WebManager に表示される情報を最新に更新するには、[ツール] メニューの [リロード]、またはツールバーのリロードアイコン()をクリックします。

注: WebManager のクライアントデータ更新方法が Polling に設定されている場合、 WebManager で表示される内容は定期的に更新され、状態が変化しても即座には表示 に反映されません。最新の内容を表示したい場合は、操作を行った後 [リロード] アイコン [[●]]または[ツール] メニューの [リロード] をクリックしてください。

WebManager の自動更新間隔は、Builder の [クラスタのプロパティ] - [WebManager] タブ- [調整] ボタン - [画面データ更新インターバル] の項目で調整可能です。

接続先と通信不可である場合、及び、接続先で CLUSTERPRO X SingleServerSafe が 動作していない場合などは、一部オブジェクトが灰色で表示されることがあります。

WebManager の画面レイアウトを変更するには

各ビューを区切っているスプリットバーのボタンをクリックするか、バーをドラッグすると、 WebManager の画面レイアウトを変更できます。特定のビューのみを表示したい場合などに 便利です。

スプリットバーとは、WebManager の各ビューを区切っている

のバーのことで、 **本** を選択するとそのビューを最大表示にし、 **を**選択するとそのビューを 非表示にすることが可能です。

ツリービューの表示項目を変更するには、[ツール] メニューの [オプション]、またはツール バーのオプションアイコン [¹⁰⁰] をクリックします。 下記ダイアログが表示されるので、表示したい項目にチェックします。

─ 各サーバの下に起動済みグループのショートカットを表示する		
☑ 各サーバの下にハートビートリソースとNP解決リソースを表示する		
OK キャンセル		

WebManager から時刻情報を確認するには

WebManager から時刻情報を確認するには、[ツール] メニューの [時刻情報]、またはツー ルバーの時刻情報アイコン [[●]] をクリックします。

サーバタブに表示される時刻情報

 \mathbf{A} $\mathbf{\nabla}$

サーバ グループ モニタ		
	server1	
クラスタ参加 convert	2014(06/19 11:02:25 109 (GMT+00:00)	
5619611	2014/00/10 11:02:03:100 (OM1103:00)	
		10°0

◆ クラスタ参加

サーバがクラスタに参加した直近の時刻が表示されます。

当 時刻情報		×
サーバ グループ モニタ		
failover1		
	server1	
最終活性		
failover1	2014/06/18 11:06:48.924 (GMT+09:00)	
最終活性異常	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
	server1	
最終非活性		
failover1	-	
最終非活性異常		
I		
2	リアリンクレンジャングレンジョン・ション・ション・ション・ション・ション・ション・ション・ション・ション・シ	閉じる

- ◆ 最終活性 フェイルオーバグループがサーバ上で最後に活性した時刻が表示されます。
- ◆ 最終活性異常 グループリソースがサーバ上で最後に活性異常を検出した時刻が表示されます。
- ◆ 最終非活性 フェイルオーバグループがサーバ上で最後に非活性した時刻が表示されます。
- ◆ 最終非活性異常 グループリソースがサーバ上で最後に非活性異常を検出した時刻が表示されます。

▲ 時刻情報					×
サーバ グループ モニタ					
	server1				
最終異常検出					
userw -]			
<u> </u>		1			
	クリア	更新	閉じる		

モニタタブに表示される時刻情報

- ◆ 最終異常検出 各モニタリソースがサーバ上で最後に正常状態から異常状態に遷移した時刻が表示され ます。
- 注: 外部連携モニタリソースは非対応です。

[クリア] ボタン

表示しているタブの時刻情報を削除します。

[更新] ボタン

全てのタブの時刻情報を再取得します。

[閉じる] ボタン

時刻情報ダイアログボックスを閉じます。

注: WebManager の [クライアントデータ更新方法] が [Polling] に設定されている環境で、 本画面の[クリア]ボタンを押した時にツールバーの時刻情報アイコンが点灯することがあ りますがクラスタとしては問題ありません。

WebManager から統合マネージャを起動するには

WebManager から統合マネージャを起動するには、[ツール] メニューの [統合マネージャ]、 またはツールバーの統合マネージャアイコン [回] をクリックします。

WebManager からサービスの操作を行うには

WebManager から各サービスの操作を行うには、[サービス] メニューから下記の各項目を 選択します。

- ◆ クラスタサスペンド CLUSTERPRO Server サービスの一時停止を行います。CLUSTERPRO Server サー ビスが起動している状態でのみ選択可能です。
- ◆ クラスタリジューム サスペンドしたCLUSTERPRO Server サービスの再開を行います。CLUSTERPRO Server サービスがサスペンドしている状態でのみ選択可能です。
- ◆ クラスタ開始
 CLUSTERPRO Server サービスの起動を行います。CLUSTERPRO Server サービス
 が停止している状態でのみ選択可能です。
- ◆ クラスタ停止
 CLUSTERPRO Server サービスの停止を行います。CLUSTERPRO Server サービス
 が起動している状態でのみ選択可能です。
- ◆ マネージャ再起動
 WebManagerの再起動を行います。

WebManager からライセンスを確認するには

セクション | マネージャ操作リファレンス

WebManager からライセンスを確認するには、[ヘルプ] メニューの [ライセンス情報] をクリックします。

≤」 ライセンス詳細情報				×
登録済みライセンス一覧				
製品名 ▲	製品区分	開始日	終了日	残日数
CLUSTERPRO X Alert Service	製品版			
CLUSTERPRO X Application Server Agent	製品版			
CLUSTERPRO X Database Agent	製品版			
CLUSTERPRO X Internet Server Agent	製品版			
CLUSTERPRO X Java Resource Agent	製品版			
CLUSTERPRO X SingleServerSafe	製品版			
CLUSTERPRO X System Resource Agent	製品版			
	OK			
	UK			

登録済みライセンス一覧

接続先サーバに登録されているライセンスが表示されます。

一覧のフィールド名を選択することにより各項目を並び替えることが可能です。

既定の状態では [製品名] について昇順に並んでいます。

注: あるライセンスに複数のライセンスが包含されている場合、それぞれ個別に表示されます。

[OK] ボタン

ライセンス情報ダイアログボックスを閉じます。

WebManager のツリービューで各オブジェクトの状態を確認するには

WebManager の画面上で、各オブジェクトの状態を視覚的に確認できます。以下にその手順 を示します。

画面左にツリーが表示されます。各オブジェクトのアイコンの形や色によって状態を確認します。 ツリーに表示される各オブジェクトの色については、『CLUSTERPRO X リファレンスガイド』の 「第1章 WebManagerの機能」を参照してください。

注: ツリー構成は CLUSTERPRO X SingleServerSafe のバージョンや併用するオプション製 品によって異なります。

WebManager から実行できる操作

[クラスタ全体]、[特定サーバ]、[特定グループ]、[特定のグループリソース]は右クリックを行うことで、クラスタに対する操作を行うことが可能です。

クラスタ全体のオブジェクト

右クリックを行うことで以下のメニューが表示されます。



♦ シャットダウン

稼動中のサーバをシャットダウンします。選択すると以下の確認ダイアログが表示されます。



◆ リブート

稼動中の全てのサーバをリブートします。選択すると以下の確認ダイアログが表示されます。

🍝 確認	×
? "server1"をリブートしますか?	
0K キャンセル	

◆ サービス

選択するとショートカット メニューに [クラスタサスペンド]、[クラスタリジューム]、[クラスタ 開始]、[クラスタ停止]、[マネージャ再起動] が表示されます。

特定サーバのオブジェクト

右クリックを行うことで以下のメニューが表示されます。



◆ シャットダウン

選択したサーバをシャットダウンします。選択すると以下の確認ダイアログが表示されます。

실 確認	
?	注意:サーバをシャットダウンすると、このサーバは再起動後にダウン後再起動状態になることがあります。 ダウン後再起動状態のサーバでは、グループを起動できません。 ダウン後再起動状態のサーバを正常な状態に戻すためにはサーバを復帰する必要があります。
	続行しますか?
	OK キャンセル

◆ リブート

選択したサーバをリブートします。選択すると以下の確認ダイアログが表示されます。



◆ 復帰

選択したサーバを復帰します。選択すると以下の確認ダイアログが表示されます。

🍝 確認			×
?	"server1"を復	帰しますか?	
	ок	キャンセル	

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 4.0 for Windows 操作ガイド

◆ サービス

選択したサーバを開始および停止します。[停止] を選択すると以下の確認ダイアログが 表示されます。

🍝 確認	
?	注意:サービスを停止すると、このサーバはサービス再開後にダウン後再起動状態になることがあります。 ダウン後再起動状態のサーバでは、グループを起動できません。 ダウン後再起動状態のサーバを正常な状態に戻すためにはサーバを復帰する必要があります。
	続行しますか?
	OK キャンセル

SingleServerSafeの場合、[開始] は選択できません。

◆ 統計情報リセット

選択したサーバの統計情報をリセットします。選択すると以下の確認ダイアログが表示されます。

실 確認	×			
?	"server1"の統計情報をリセットしますか?			
	OK キャンセル			

◆ CPU クロック制御

選択したサーバの CPU クロック制御機能を設定します。

● 最高クロック

CPU クロック数を最高にします。



● 最低クロック

CPU クロック数を下げて省電力モードにします。

🍝 確認	
?	サーバ"server1"のCPUクロックを最低クロックに設定します。よろしいですか?
	OK キャンセル

● 自動設定

CPU クロックの制御を CLUSTERPRO の自動制御に戻します。

🍝 確認	
?	サーバ"server1"のCPUクロックを自動設定に戻します。よろしいですか?
	0K キャンセル

クラスタのプロパティの [拡張] タブの設定で [CPU クロック制御機能を使用する] にチェックが入っていない場合、この機能は使えません。

特定グループのオブジェクト

右クリックを行うことで以下のメニューが表示されます。



グループのタイプが仮想マシンの場合



◆ 起動 (停止中のみ選択可能)

選択したグループを起動します。選択したグループをどのサーバで起動するか選択する ダイアログが表示されます。

🍝 サーバ選択(グループ起動)		×
サーバを選択してください:	server1	•
ОК	キャンセル	

♦ 停止 (起動中または異常状態のみ選択可能)

選択したグループを停止します。選択すると以下の確認ダイアログが表示されます。

🍰 確認	×
? "failover1"を停止しますか?	
OK キャンセル	

♦ 移動

CLUSTERPRO X SingleServerSafe では使用しません。

◆ マイグレーション (グループタイプが仮想マシンの場合に表示されます)
 CLUSTERPRO X SingleServerSafe では使用しません。

特定グループリソースのオブジェクト

右クリックを行うことで以下のメニューが表示されます。



◆ 起動 (停止中のみ選択可能)

選択したグループリソースを起動します。選択したグループをどのサーバで起動するか選 択するダイアログが表示されます。

遙 サーバ躍択(リソース起動)	×
サーバを選択してください:	server1
ОК	キャンセル

♦ 停止 (起動中または異常状態のみ選択可能)

選択したグループを停止します。選択すると以下の確認ダイアログが表示されます。

🍝 確認	×
? "script1"を停	止しますか?
OK	キャンセル

モニタリソース全体のオブジェクト

右クリックを行うことで以下のメニューが表示されます。



検証モード選択時



◆ 再開 (一時停止中のみ選択可能)

設定されている全てのモニタリソースを再開します。ただし、監視一時停止/再開が不可能 なモニタリソースでは実行されません。モニタリソースをどのサーバで再開するか選択す るダイアログが表示されます。

	を選択してく;	たさい: サーバ名	
~	server1		
	<u> </u>		
•			
•			

◆ 一時停止 (監視中のみ選択可能)

設定されている全てのモニタリソースを一時停止します。ただし、監視一時停止/再開が不可能なモニタリソースでは実行されません。モニタリソースをどのサーバで一時停止する か選択するダイアログが表示されます。

V		サ	ーバ名	
~	server1			

◆ 擬似障害解除(擬似障害発生中のみ選択可能)

全てのモニタリソースの擬似障害を解除します。 モニタリソースの擬似障害を解除するサーバを選択するダイアログが表示されます。

++. (**:22+0)	-71	+"+1.	
リーハを選択し	ノレト	いこさいい	

~			ť	ーバ名			
V	server1						
•							
•							

特定のモニタリソースのオブジェクト

右クリックを行うことで以下のメニューが表示されます。







◆ 再開 (一時停止中のみ選択可能)

選択したモニタリソースを再開します。選択したモニタリソースをどのサーバで再開するか 選択するダイアログが表示されます。

🕌 監視再開(diskwlocal)	×
サーバを選択してください:	
ビリーバ名 ビ server1	
OK キャンセル デフォルト	

◆ 一時停止 (監視中のみ選択可能)

選択したモニタリソースを一時停止します。選択したモニタリソースをどのサーバで一時停止するか選択するダイアログが表示されます。
실 監視一	時停止(diskwlocal)	×
サーバを	選択してください:	
×	サーバ名 server1	
	 ○K キャンセル デフォルト	

◆ 擬似障害発生 (検証モードの場合のみ選択可能)

選択したモニタリソースの擬似障害を発生させます。擬似障害を発生させるには、該当の モニタリソースで、[各サーバでのリソースステータス]が、異常または擬似障害発生状態 以外のサーバでのみ、選択可能です。

ただし、以下のモニタリソースは選択できません。

- ・ 外部連携監視リソース
- ・ 仮想マシン監視リソース

選択したモニタリソースの擬似障害を発生させるサーバを選択するダイアログが表示され ます。

サーバを選択してください:

~		サーバ名	
~	server1		
•			Þ
	ок	キャンセル	デフォルト

◆ 擬似障害解除 (検証モードの場合のみ選択可能)

選択したモニタリソースの擬似障害を解除します。 選択したモニタリソースの擬似障害を解除するサーバを選択するダイアログが表示されま す。

サーバネ	を選択してく	(ださい:	
~		サーバ名	
~	server1		
		III	
	UK	キャンセル	テフォルト

WebManager のリストビューで状態を確認する

リストビューでは WebManager のツリービューで選択したオブジェクトの詳細情報を見ること ができます。

WebManager のリストビューで全体の詳細情報をリスト表示するには

- 1. WebManager を起動します。

server1	クラスタ:server1		詳細情報
← 🗊 server1 ← 🛅 Groups ← 💼 Monitors		server1	_
appliw1	クルーフステーダス failover1 モニタリソースステータス	停止済	-
	appliw1	停止済	_
	userw	止吊	

3. [詳細情報] ボタンをクリックします。以下の内容がダイアログ ボックスに表示されます。

情報

アラートサービス 遅延警告 ディ 情報 ハートビートUF NP解決	(スク ミラーディスク JVM 監視 拡張 タイムアウト ポート番号 監視 リカバリ
プロバティ	設定値
名前	server1
コメント	
ステータス	正常
夕益	トニ フ <i>ト 々</i>

名前 コメント ステータス クラスタ名 クラスタのコメント クラスタのステータス

ハートビート I/F

アラートサービス 遅延警告 ディ	ィスク ミラーディスク JVM 監視 拡張
情報 ハートビートI/F NP解決	タイムアウト ポート番号 監視 リカバリ
プロバティ	設定値
サーバダウン通知	する
送信方法	ユニキャスト

サーバダウン通知 送信方法

未使用

ハートビートの送信方法(ユニキャスト/ブロードキャスト)を 設定(ハートビート I/F の IP アドレスが IPv6 の場合、ブロー ドキャストは利用できません)

NP 解決

	アラートサービス 遅延警告 デー 情報 ハートビートI/F NP解決	ィスク ミラーディスク JVM 監視 拡張 タイムアウト ポート番号 監視 リカバリ
プロパティ		設定値
NP発生時動作		緊急シャットダウン

セクション | マネージャ操作リファレンス

NP 発生時動作

ネットワークパーティションが発生した時の動作

タイムアウト

アラートサービス 遅延警告 デ 情報 ハートビートVF NP解決	ィスク ミラーディスク JVM 監視 拡張 タイムアウト ボート番号 監視 リカバリ
プロバティ	
同期待ち時間	300
ハートビートタイムアウト	300000
ハートビートインターバル	30000
内部通信タイムアウト	180
タイムアウト倍率	1

同期待ち時間

未使用 ハートビートタイムアウト ハートビートのタイムアウト時間(ミリ秒) ハートビートインターバル ハートビートの送信間隔(ミリ秒) 内部通信タイムアウト 内部通信タイムアウト時間(秒) タイムアウト倍率 現在のタイムアウト倍率

ポート番号

アラートサービス 遅延警告 ディス 情報 ハートビートI/F NP解決 タ	ク ミラーディスク JVM 監視 拡張 イムアウト ポート番号 監視 リカバリ
プロパティ	設定値
内部通信ボート番号	29001
データ転送ポート番号	29002
カーネルモードハートビートボート番号	29106
クライアントサービスボート番号	29007
WebManager HTTPポート番号	29003
アラート同期ポート番号	29003
ディスクエージェントボート番号	29004
ミラードライバボート番号	29005

内部通信ポート番号 データ転送ポート番号 クライアントサービスポート番号 WebManager HTTP ポート番号 アラート同期ポート番号 ディスクエージェントポート番号 ミラードライバポート番号

内部通信で使用するポート番号 データ転送で使用するポート番号 カーネルモードハートビートポート番号 カーネルモードハートビートで使用するポート番号 クライアントで使用するポート番号 WebManager で使用するポート番号 アラート同期に使用するポート番号 未使用 未使用

監視

アラートサービス 遅延警告 デー	ィスク ミラーディスク JVM 監視 拡張
情報 ハートビートI/F NP解決	タイムアウト ポート番号 監視 リカバリ
プロバティ	設定値
システムリソース情報を収集する	しない

システムリソース情報を収集する システムリソース情報収集の有無

リカバリ

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 4.0 for Windows 操作ガイド

アラートサービス 遅延警告 ディスク ミラーディン 情報 ハートビートI/F NP解決 タイムアウト ポ	スク JVM 監視 拡張 ート番号 監視 リカバリ
プロバティ	設定値
クラスタサービスのブロセス異常時動作	OSシャットダウン
HAプロセス異常時動作:プロセス起動リトライ回数	3
HAプロセス異常時動作:リトライオーバ時の動作	何もしない
モニタリソース異常時の回復動作を抑制する	しない
グループリソースの活性俳活性ストール発生時動作	緊急シャットダウン
最後の一台の場合シャットダウンを抑制する(活性異常時)	しない
最後の一台の場合シャットダウンを抑制する(非活性異常時)	しない
最後の一台の場合シャットダウンを抑制する(監視異常時)	しない

クラスタサービスのプロセス異常時動作

クラスタサービスのプロセスが異常となった場合の動作

HA プロセス異常時動作:プロセス起動リトライ回数

HA プロセスが異常となった場合にプロセスの再 起動を実施する回数

HA プロセス異常時動作:リトライオーバ時の動作

HA プロセスが異常となり指定回数のプロセス再 起動を実施しても回復できなかった場合の動作

- モニタリソース異常時の回復動作を抑制する
 - モニタリソース異常時の回復動作抑制機能の使 用の有無
- グループリソースの活性/非活性ストール発生時動作 グループリソースが活性時または非活性時にストールした場合の動作
- 最後の一台の場合シャットダウンを抑制する(活性異常時)

最後の一台の場合の活性異常時のシャットダウ の抑制の有無

最後の一台の場合シャットダウンを抑制する(非活性異常時)

最後の一台の場合の非活性異常時のシャットダ ウンの抑制の有無

最後の一台の場合シャットダウンを抑制する(監視異常時)

最後の一台の場合の監視異常時のシャットダウ ンの抑制の有無

アラートサービス

アラートサービス 遅延警告 「 増報 ハートビート//F NP解決	ィスク ミラーディスク JVM 監視 拡張 タイムアウト ポート番号 監視 リカバリ
プロバティ	設定値
メールアドレス	
ネットワーク警告灯を使用する	しない
筐体IDランブ連携を使用する	しない
アラート通報設定を有効にする	しない

メールアドレス

ネットワーク警告灯を使用する 筐体 ID ランプ連携を使用する アラート通報設定を有効にする 通報先メールアドレス 未使用 未使用 アラート通報設定の使用の有無

遅延警告

セクション | マネージャ操作リファレンス

アラートサービス 遅延警告 デ・ 情報 ハートビートWF NP解決	ィスク ミラーディスク JVM 監視 拡張 タイムアウト ボート番号 監視 リカバリ
プロバティ	設定値
ハートビート遅延警告	80
モニタ遅延警告	80
COM遅延警告	80

ハートビート遅延警告ハートビートの遅延警告(%)モニタ遅延警告モニタの遅延警告(%)COM 遅延警告未使用

ディスク

アラートサービス 遅延警告 ディス	ク ミラーディスク JVM 監視 拡張
「情報 「ハートビートI/F 」 NP解決 「タ	イムアウト ボート番号 監視 リカバリ
プロバティ	設定値
共有ディスク切断リトライしきい値	10
共有ディスク切断タイムアウト	1800
共有ディスク切断リトライインターバル	3
共有ディスク切断時最終動作	強制切断する

共有ディスク切断リトライしきい値	未使用
共有ディスク切断タイムアウト	未使用
共有ディスク切断リトライインターバル	未使用
共有ディスク切断時最終動作	未使用

ミラーディスク

アラートサービス 遅延警告 ディスク	ミラーディスク JVM 監視 拡張
情報 ハートビートI/F NP解決 タイム	↓アウト ポート番号 監視 リカバリ
プロバティ	設定値
自動ミラー初期構築	する
自動ミラー復帰	する
統計情報を採取する	する
差分ビットマップサイズ (MB)	1
非同期モードでの履歴記録領域サイズ (MB)	1
ミラーディスク切断リトライしきい値	10
ミラーディスク切断タイムアウト	1800
ミラーディスク切断リトライインターバル	3
ミラーディスク切断時最終動作	強制切断する

自動ミラー初期構築	未使用
自動ミラー復帰	未使用
統計情報を採取する	未使用
ミラーディスク切断リトライしきい値	未使用
ミラーディスク切断タイムアウト	未使用
ミラーディスク切断リトライインターバル	未使用
ミラーディスク切断時最終動作	未使用

JVM 監視

「首報版 ハートビートルド NP解決 タイムアリト ハー プロパティ パートレバス ノードバランサ連携設定 1 ロードバランサ連携設定 ジログレベル 川 保持するログファイルの世代数 1	- F 番号 監視 リカハリ 設定値 6 車携しない NFO 0
プロパティ Javaインストールパス 最大Javaヒープサイズ(MB) 1 ロードバランサ連携設定 近 ログレベル II 保持するログファイルの世代数 1 ログローテーション方式 2	設定値 6 車携しない NFO 0
Javaインストールパス 最大Javaヒープサイズ(MB) 1 ロードバランサ連携設定 説 ログレベル II 保持するログファイルの世代数 1 ログローテーション方式 2	6 重携しない NFO 0
最大Javaヒーブサイズ(MB) 1 ロードバランサ連携設定 2 ログレベル II 保持するログファイルの世代数 1 ログローテーション方式 2	6 重携しない NFO 0
ロードバランサ連携設定 A ログレベル II 保持するログファイルの世代数 1 ログローテーション方式 5	連携しない NFO O
ロクレベル 保持するログファイルの世代数 ログローテーション方式	0 0
ほ行するロクファイルの世代数 1 ログローテーション方式 2	0
ロクローナーンヨノ方式 .	
	<u>ファイルサイス</u>
ログファイルの成人サイス(KB) は ログローニーン・シスクロから行きます。	3072
ログローナーンヨノを取利に行う時刻していた。	JU:UU
ロクローナーションのインダーハル(時間) 2	.4
リンテス計測・計測リトフィ 回数 11	
ワノニ人前別・共市村進しるい吧 ロート・ロート ロート・ロート ロート・ロート ロート・ロート ロート・ロート ロート・ロート	,
リフェス計測・スモリ、スレットの計測インスニハル(12) [ロフェフ計測・Foliceの計測インターパル通知) 4	20
クラースin Million Cooling インス アルクタイ 1000 1000 1000 1000 1000 1000 1000 10	20
Weblogic監視: 開始サイント国政 Weblogic監視: 異常判定しきい値	,
WebLogic監視:只有有足していた。 WebLogic監視:リクエスト数の計測インターバル(秒) 6	 ۱۵
WebLogic監視: 平均値の計測インターバル(秒) 3	300
管理ボート番号 2	25500
	}
再接続までの待ち時間(秒) 6	<u>ا</u> ن
ロードバランサ連携の管理ポート番号 2	25550
ヘルスチェック機能と連携する	しない
HTML格納ディレクトリ	
HTMLファイル名	
HTMLリネーム先ファイル名	
リネーム失敗時のリトライ回数 3	}
リネームのリトライまでの待ち時間(秒) 3	}
mgmt IPアドレス	
通信ボート番号 4	43
ava $\sqrt{2}$	ノストールパス

Java 12AP-INNA	Java 1 JAR - MAA
最大 Java ヒープサイズ(MB)	最大 Java ヒープサイズ(MB)
ロードバランサ連携設定	ロードバランサ連携設定
ログレベル	ログレベル
保持するログファイルの世代数	保持するログファイルの世代数
ログローテーション方式	ログローテーション方式
ログファイルの最大サイズ(KB)	ログファイルの最大サイズ(KB)
ログローテーションを最初に行う時刻	ログローテーションを最初に行う時刻
ログローテーションのインターバル(時間)	ログローテーションのインターバル(時間)
リソース計測:計測リトライ回数	リソース計測:計測リトライ回数
リソース計測:異常判定しきい値	リソース計測:異常判定しきい値
リソース計測:メモリ、スレッドの計測インターノ	バル(秒)
	リソース計測:メモリ、スレッドの計測イン
	ターバル(秒)
リソース計測:Full GC の計測インターバル(利	 シ) リソース計測:Full GC の計測インターバ ル(秒)
WebLogic 監視:計測リトライ回数	WebLogic 監視:計測リトライ回数
WebLogic 監視:異常判定しきい値	WebLogic 監視:異常判定しきい値
WebLogic 監視:リクエスト数の計測インターノ	ベル(秒)
	WebLogic 監視:リクエスト数の計測イン
WebLogic 監視:平均値の計測インターバル(* * * * * * * * * * * * * * * * * * *

管理ポート番号 接続のリトライ回数 再接続までの待ち時間(秒) ロードバランサ連携の管理ポート番号 ヘルスチェック機能と連携する HTML 格納ディレクトリ HTML ファイル名 HTML リネーム先ファイル名 リネーム失敗時のリトライ回数 リネームのリトライまでの待ち時間(秒) mgmt IP アドレス 通信ポート番号 管理ポート番号 接続のリトライ回数 再接続までの待ち時間(秒) ロードバランサ連携の管理ポート番号 ヘルスチェック機能と連携する HTML 格納ディレクトリ HTML ファイル名 HTML リネーム先ファイル名 リネーム失敗時のリトライ回数 リネームのリトライまでの待ち時間(秒) BIG-IP LTM の管理 IP アドレス BIG-IP LTM との通信ポート番号

拡張

アラートサービス 遅延警告 デ・	ィスク ミラーディスク JVM 監視 拡張
情報 ハートビートI/F NP解決	タイムアウト ボート番号 監視 リカバリ
プロパティ	設定値
最大再起動回数	3
最大再起動回数をリセットする時間	60
強制停止機能を使用する	しない
強制停止アクション	BMCパワーオフ
強制停止タイムアウト (秒)	3
強制停止スクリブトを実行する	しない
CPUクロック制御機能を使用する	しない
自動復帰	する
フェイルオーバ回数のカウント単位	サーバ

最大再起動回数

最大再起動回数をリセットする時間 強制停止機能を使用する 強制停止アクション 強制停止タイムアウト 強制停止スクリプトを実行する CPU クロック制御機能を使用する 自動復帰

フェイルオーバ回数のカウント単位

最大再起動回数

最大再起動回数をリセットする時間(秒) 未使用 未使用 未使用 CPU クロック制御機能の使用の有無 サーバが「保留(ダウン後再起動)」で起動後、 自動的にサーバの「復帰」を行うか否かの設定 未使用

WebManager のリストビューでサーバ状態の概要を確認するには

- 1. WebManager を起動します。
- 2. ツリービューでサーバ全体のオブジェクト [と選択すると、右側のリストビューの上 段に各サーバ上のハートビートステータス、ネットワークパーティション解決ステータスー 覧が表示されます。

🦣 server1	Servers : Servers	サーバグルー	・プリスト
🔶 🥡 server1 🗢 📺 Groups		server1	
🔶 💼 Monitors - 🕵 appliw1	ハートビートステータス Jankhh1		
🗆 🧔 userw	ネットワークバーティション解決	上 冊 ステータス	

WebManager のリストビューでサーバ状態の詳細を確認するには

- 1. WebManager を起動します。
- 2. ツリービューで特定サーバのオブジェクト [1] を選択すると、サーバの [コメント]、[製 品]、[内部バージョン]、[インストールパス]、[ステータス]が表示されます。

🚾 server1	サーバ名:server1	言羊糸田「青幸履	
두 🗃 server1	プロパティ	設定値	
🔄 🗆 🎯 lankhb1	コメント		
— 🛑 Groups	仮想化基盤		
🕈 🥅 Monitors	製品	CLUSTERPRO X SingleServerSafe 4.0 for Windows	
– 🦃 userw	内部バージョン	12.00	
	インストールバス	C:\Program Files\CLUSTERPRO SSS	
	ステータス	起動済	
	ハートビートステータス	1	
	lianknp1 ウェットロークレシュティンテンの201		
1	- ネットワークハーティンヨン解決		
コメント	サーバのコメント		
仮想化基盤	仮想化基盤名		
製品	製品名		
内部バージョン	内部のバージョン		
インストールパス	CLUSTERPRO のインストールパス		
ステータス	サーバのステータス		

3. [詳細情報]ボタンをクリックすると、以下の内容がダイアログボックスに表示されます。

遙 サーバ 詳細プロパティ (server1)	
プロバティ	設定値
名前	server1
ミラーディスクコネクト IPアドレス	
ネットワーク警告灯 IPアドレス(種類)	
BMCIPアドレス	
CPUクロック状態	-
両多活性検出時のシャットダウンを抑制する	しない

... ح

名前	サーバ名
ミラーディスクコネクト IP アドレス	未使用
ネットワーク警告灯 IP アドレス (種類)	未使用
BMC IP アドレス	未使用
CPU クロック状態	CPU クロック制御の現在の設定状態
両系活性検出時のシャットダウンを抑制する	未使用

WebManager のリストビューでモニタ全体の状態を確認するには

- 1. WebManager を起動します。
- 2. ツリービューでモニタ全体のオブジェクト [100] を選択すると、リストビューに [モニタ名] とステータスー覧が表示されます。

kar server1	Monitors : Monitors	
← 👘 server1 ← 🛅 Groups		server1
←	モニタリソースステータス appliw1	停止済
— 🔎 userw	userw	正常

WebManager でアラートを確認する

WebManager の下部分で、アラートを確認することができます。

アラートビューの各フィールドは、以下のような構成になっています。



なお、各アラートメッセージの意味については、本書の「第 4 章 エラーメッセージー覧」を参照してください。また、アラートメッセージの検索については、本章の「WebManager でアラートの検索を行うには」を参照してください。

アラートビューの各フィールドについて

WebManager のアラートビューの各フィールドの意味は以下のとおりです。

(1) アラート種別アイコン

アラート種別	意味	
	情報メッセージであることを示しています。	
	警告メッセージであることを示しています。	
*	異常メッセージであることを示しています。	

(2) アラート受信時刻

アラートを受信した時刻です。WebManager 接続先のサーバの時刻が適用されます。

(3) アラート発信時刻

サーバからアラートが発信された時刻です。アラート発信元サーバの時刻が適用されま す。

(4) アラート発信元サーバ

アラートを発信したサーバのサーバ名です。

(5) アラート発信元モジュール アラートを発信したモジュールのモジュール名です。

セクション | マネージャ操作リファレンス

モジュール名のタイプー覧は、21 ページの「WebManager でアラートの検索を行うに は」を参照してください。

(6) イベント ID

各アラートに設定されているイベント ID 番号です。

(7) アラートメッセージ
アラートメッセージ本体です。

アラートビューの操作

アラートビューの各フィールド名を示すバー

_____ 受信時刻 ▲ 第生時刻 サーバ名 モジュール名 イベントロ メッセージ の各項目を選択しアラートを並び替えることが可能です。

各フィールドを選択するごとに △ か▼ のマークが表示されます。

マーク	意味
Δ	アラートをそのフィールドに関しての昇順に並び替えます。
$\mathbf{\nabla}$	アラートをそのフィールドに関しての降順に並び替えます。

既定の状態では [発生時刻] について降順に並んでいます。

フィールド名の部分を左右にドラッグすることで、項目の表示順を変更することもできます。

また、このバーを右クリックすると、以下のポップアップ画面が表示され、表示する項目を選択 することができます。既定の状態ではすべての項目が選択されています。

種類	受信時刻 🔽	-	701	主時刻	サーバ名
1	2018/02/01 13:59:08.1	■種乳	領	3:59:08.148	server1
i	2018/02/01 13:59:08.0	☑ 受(言時刻	3:59:08.054	server1
1	2018/02/01 13:59:08.0	☑ 発生	生時刻	3:59:08.054	server1
i	2018/02/01 13:58:42.0	- 76. 	125	3:58:42.014	server1
1	2018/02/01 13:58:41.9	шŢ	-/1:名	3:58:41.905	server1
1	2018/02/01 13:58:41.9	⊻ ÷:	ジュール名	3:58:41.905	server1
1	2018/02/01 13:58:22.2	11	ペントロ	3:58:22.235	server1
i	2018/02/01 13:58:22.1			3:58:22.125	server1
1	2018/02/01 13:58:22.1	EX.	ッセーン	3:58:22.125	server1
1	2018/02/01 13:58:22.1	25	2018/02/01 1	3:58:22.125	server1

表示されているアラートをダブルクリックすると、以下の画面が表示され、アラートの詳細を確認することができます。

4	シアラートログ詳細情報			
ſ	計論出書			
	種類:	情報		
	受信時刻:	2018/02/01 13:59:08.148		
	発生時刻 :	2018/02/01 13:59:08.148		
	サーバ名:	server1		
	モジュール名:	rc		
	イベントID:	1011		
	メッセージ:			
	グループ failover1 の起動が完了しました。			
閉じる				

また、アラートを右クリックすると、以下のポップアップ画面が表示され、表示するアラートのタ イプを選択できます。既定の状態ではすべての項目が選択されています。

i		1 13:59:08.148
i	▶ 【書載	1 13:59:08.085
i	☑ 警告	1 13:59:08.054
i	☑ 異常	1 13:58:42.014
1	2010/02/0	1 13:58:41.921
()	2018/02/0	1 13:58:41.905
i	2018/02/0	1 13:58:22.235

WebManager を手動で停止/開始する

CLUSTERPRO X SingleServerSafe インストール後、サーバ側の WebManager は OS の起動/停止と合わせて起動/停止するようになっています。

手動で停止/開始する場合、OS のサービス制御マネージャから、「CLUSTERPRO Manager」 サービスを停止/開始してください。

WebManager を利用したくない場合

セキュリティの観点から WebManager を利用したくない場合、OS の [管理ツール] の [サービス]、または Builder の設定で WebManager が起動しないように設定してください。

[管理ツール] の [サービス] で設定する場合は、「CLUSTERPRO Manager」サービスの 「スタートアップの種類」を「手動」に設定してください。

「クラスタのプロパティ」で WebManager の使用を設定できます。設定については、 『CLUSTERPRO X SingleServerSafe 設定ガイド』の「第 5 章 その他の設定の詳細」 の「WebManager タブ」を参照してください。

WebManager の接続制限、操作制限を設定する

WebManager の接続制限、操作制限は Builder の [クラスタのプロパティ] で設定できます。 設定については、『CLUSTERPRO X SingleServerSafe 設定ガイド』の「第 5 章 その他 の設定の詳細」の「WebManager タブ」を参照してください。

使用制限の種類

使用制限の方法は以下の 2 つがあります。

- ◆ クライアント IP アドレスによる接続制限
- ◆ パスワードによる制限

クライアント IP アドレスによる接続制限

WebManager に接続できるクライアントの WebManager での操作を、クライアント IP アド レスにより制限する機能です。

Builder で [クラスタのプロパティ] の [WebManager] タブをクリックし、[接続を許可するクラ イアント IP アドレス一覧] に IP アドレスを追加してください。

WebManager の接続制限の設定において、[接続を許可するクライアント IP アドレス一覧] に 追加されていない IP アドレスから WebManager に接続しようとすると以下のエラーメッセージ が表示されます。

Internet Explorer の場合

Web サイトによってこのページの表示を拒否されました	
	HTTP 40
可能性のある原因:	
 この Web サイトを表示するにはログインが必要です。 	
対処方法:	
 前のページに戻る。 	
● 詳細情報	

操作制限するように登録されたクライアントから WebManager に接続した場合、選択できる モードは参照モードのみになります。

🙋 参照モード	•
🙆 操作モード	
🕞 設定モード	
🙋 参照モード	
🧧 検証モード	

操作制限を行うと WebManager 上から以下の操作ができなくなります。

- ◆ サーバのシャットダウン、シャットダウンリブート
- ◆ 各グループの起動、停止
- ◆ 操作モードへの変更
- ◆ 設定モードへの変更
- ◆ 検証モードへの変更

パスワードによる制限

パスワードにより WebManager での参照や操作を制限する機能です。

Builder で [クラスタのプロパティ] の [WebManager] タブをクリックし、[パスワードによって 接続を制御する] の設定を行ってください。

WebManager のパスワード制限の設定において、パスワードを設定して WebManager に 接続しようとすると以下の認証ダイアログ ボックスが表示されます。

🛓 ログイン	×
権限:	操作可能 🔻
バスワード:	
ОК	キャンセル

[権限] で [操作可能] および [参照専用] を選択し正しいパスワードを入力すると、 WebManager にログインできます。

- ◆ パスワード制限を設定していない場合は、認証ダイアログボックスは表示されません(認証なしにログインできます)
- ◆ パスワードを 3 回間違えると、WebManager にログインできません

参照専用の権限でログインした場合、WebManager は参照モードになります。この状態から 操作モード、設定モード、検証モードへの変更操作を行うと、上記の認証ダイアログが表示さ れ、操作可能なパスワードの入力を求められます。

使用制限の組み合わせ

IP アドレスによる制限機能とパスワードによる制限機能を併用した場合の操作制限は以下のようになります。

	パスワード制限			
クライアント	堤佐可能	<u>操作</u> 学派 金丽素田 操作/参照不可		
IP アドレス制限	床TF 刂 兆	》 照寻用	(認証失敗)	
操作可能	操作可能	参照専用	使用不可	
参照専用	参照専用*	参照専用	使用不可	
接続不可	接続不可	接続不可	接続不可	

*権限の選択で選べません。

セクション II コマンドリファレンス

このセクションでは、CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用可能なコマンドについて説明します。 CLUSTERPRO X SingleServerSafe は、クラスタリングソフトウェアである CLUSTERPRO X との操作 性などにおける親和性を高めるために、共通のコマンドを使用しています。本ガイドでは、CLUSTERPRO X SingleServerSafeに特化した説明を行っていますので、コマンドの全体像を理解する際は、CLUSTERPRO X の『リファレンスガイド』を合わせて参照してください。

• 第2章 CLUSTERPROX SingleServerSafe コマンドリファレンス

第2章 CLUSTERPROX SingleServerSafe コマンドリ ファレンス

本章では、CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用可能なコマンドについて説明します。

本章で説明する項目は以下のとおりです。

•	コマンドラインから操作する	• 56
•	コマンドー覧	· 56
•	状態を表示する (clpstat コマンド)	• 58
•	サービスを操作する (clpcl コマンド)	· 61
•	サーバをシャットダウンする (clpstdn コマンド)	· 65
•	グループを操作する (clpgrp コマンド)	· 66
•	ログを収集する (clplogcc コマンド)······	· 69
•	構成情報の反映、バックアップを実行する (clpcfctrl コマンド)	• 74
•	タイムアウトを一時調整する (clptoratio コマンド)	• 79
•	ログレベル/サイズを変更する (clplogcf コマンド)	· 82
•	ライセンスを管理する (clplcnsc コマンド)	• 90
•	メッセージを出力する (clplogcmd コマンド)	• 95
•	モニタリソースを制御する (clpmonctrl コマンド)	• 97
•	グループリソースを制御する (clprsc コマンド)	101
•	CPU クロックを制御する (clpcpufreq コマンド)	104
•	クラスタ間連携を行う (clptrnreq コマンド)	106
•	クラスタサーバに処理を要求する (clprexec コマンド)	109
•	再起動回数を制御する(clpregctrl コマンド) ······	113
•	リソース使用量を予測する (clpprer コマンド) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	115
•	プロセスの健全性を確認する (clphealthchk コマンド)	120
•	クラスタ外からの操作による OS シャットダウン時の動作を設定する (clpstdncnf コマンド)	122

コマンドラインから操作する

CLUSTERPRO X SingleServerSafe では、コマンドプロンプトから操作するための多様なコ マンドが用意されています。構築時や WebManager が使用できない状況の場合などに便利 です。コマンドラインでは、WebManager で行える以上の種類の操作を行うことができます。

- 注:モニタリソースの異常検出時の設定で回復対象にグループリソース (アプリケーションリソース、…)を指定し、モニタリソースが異常を検出した場合の回復動作遷移中 (再活性化 → 最終動作)には、以下のコマンドまたは、WebManager からのサービスおよびグループへの制御は行わないでください。
 - ◆ サービスの停止/サスペンド
 - ◆ グループの開始/停止

モニタリソース異常による回復動作遷移中に上記の制御を行うと、そのグループの他のグ ループリソースが停止しないことがあります。

また、モニタリソース異常状態であっても最終動作実行後であれば上記制御を行うことが 可能です。

コマンド一覧

構築関連		
コマンド	説明	ページ
clpcfctrl.exe	Builder で作成した構成情報をサーバに 反映します。	74
	Builderで使用するために構成情報をバッ クアップします。	
clplcnsc.exe	本製品の製品版・試用版ライセンスを管 理します。	90

状態表示関連		
コマンド	説明	ページ
clpstat.exe	CLUSTERPRO X SingleServerSafe の 状態や、設定情報を表示します。	58
clphealthchk.exe	プロセスの健全性を確認します。	120
操作関連		
コマンド	説明	ページ
clpcl.exe	サービスの起動、停止、サスペンド、リ ジュームなどを実行します。	61
clpstdn.exe	サービスを停止し、サーバをシャットダウ ンします。	65
clpgrp.exe	グループの起動、停止を実行します。	66
clptoratio.exe	各種タイムアウト値の延長、表示を行いま す。	79

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 4.0 for Windows 操作ガイド

clpmonctrl.exe	モニタリソースの一時停止/再開を行いま す。	97
clprsc.exe	グループリソースの一時停止/再開を行い ます。	101
clpcpufreq.exe	CPUクロックの制御を行います。	104
clprexec.exe	サーバへ処理実行を要求します。	109
clpregctrl.exe	再起動回数制限の制御を行います。	113
ログ関連		
コマンド		ページ
コマンド clplogcc.exe	説明 ログ、OS情報等を収集します。	ページ 69
コマンド clplogcc.exe clplogcf.exe	説明 ログ、OS情報等を収集します。 ログレベル、ログ出力ファイルサイズの設定の変更、表示を行います。	ページ 69 82
コマンド clplogcc.exe clplogcf.exe スクリプト関連	説明 ログ、OS情報等を収集します。 ログレベル、ログ出力ファイルサイズの設定の変更、表示を行います。	ページ 69 82
コマンド clplogcc.exe clplogcf.exe スクリプト関連 コマンド	説明 ログ、OS情報等を収集します。 ログレベル、ログ出力ファイルサイズの設定の変更、表示を行います。 説明	ページ 69 82 ページ

重要: インストールディレクトリ配下に本マニュアルに記載していない実行形式ファイルやスク リプトファイルがありますが、CLUSTERPRO X SingleServerSafe 以外からの実行は しないでください。実行した場合の影響については、サポート対象外とします。

システム監視関連 (System Resorce Agent を使用している場合のみ)		
コマンド	説明	ページ
clpprer.exe	与えられたリソース使用量データの傾向 から将来値を予測します。	115

状態を表示する (clpstat コマンド)

clpstat

CLUSTERPRO X SingleServerSafe の状態と、設定情報を表示します。

コマンドライン

```
clpstat -s [--long]
clpstat -g
clpstat -m
clpstat -i [--detail]
clpstat --cl [--detail]
clpstat --sv [--detail]
clpstat --grp [<grpname>] [--detail]
clpstat --rsc [<rscname>] [--detail]
clpstat --mon [<monname>] [--detail]
```

説明 CLUSTERPRO X SingleServerSafe の状態や、設定情報を表示します。

オプション	-s または	状態を表示します。
	オプションなし	
	long	クラスタ名やリソース名などの名前を最後まで表 示します。
	-g	グループを表示します。
	-m	各モニタリソースの状態を表示します。
	-i	全体の設定情報を表示します。
	cl	設定情報を表示します。
	SV	サーバの設定情報を表示します。
	grp [< <i>grpname</i> >]	グループの設定情報を表示します。グループ名を 指定することによって、指定したグループ情報の みを表示できます。
	rsc [< <i>rscname</i> >]	グループリソースの設定情報を表示します。グ ループリソース名を指定することによって、指定し たグループリソース情報のみを表示できます。
	mon [< <i>monnam</i> e>]	モニタリソースの設定情報を表示します。モニタリ ソース名を指定することによって、指定したモニタ リソース情報のみを表示できます。
	detail	このオプションを使用することによって、より詳細な 設定情報を表示できます。
戻り値	0	成功
	251	二重起動
	上記以外	異常

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 4.0 for Windows 操作ガイド

- 備考 設定情報表示オプションは組み合わせによって、様々な形式で情報 表示をすることができます。
- 注意事項 本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。本 コマンドを実行するサーバは CLUSTERPRO サービスが起動している 必要があります。 オプションを指定しない場合と -s オプションを指定する場合は、クラス タ名やリソース名などの名前が途中までしか出力されません。
- 表示例 表示例は次のトピックで説明します。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as administrator.	Administrator 権限を持つ ユーザで実行してください。
Invalid configuration file. Create valid cluster configuration data by using the Builder.	Builder で正しいクラスタ構成情報を 作成してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Could not connect to the server. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか 確認してください。
Invalid server status.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか 確認してください。
Server is not active. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか 確認してください。
Invalid server name. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を 指定してください。
Invalid heartbeat resource name. Specify a valid heartbeat resource name in the cluster.	クラスタ内の正しいハートビートリソース名を 指定してください。
Invalid network partition resource name. Specify a valid network partition resource name in the cluster.	クラスタ内の正しいネットワークパーティション 解決リソース名を指定してください。
Invalid group name. Specify a valid group name in the cluster.	クラスタ内の正しいグループ名を 指定してください。
Invalid group resource name. Specify a valid group resource name in the cluster.	クラスタ内の正しいグループリソース名を 指定してください。
Invalid monitor resource name. Specify a valid monitor resource name in the cluster.	クラスタ内の正しいモニタリソース名を 指定してください。
Connection was lost. Check if there is a server where the cluster service is stopped in the cluster.	クラスタ内に CLUSTERPRO サービスが 停止しているサーバがないか確認してくださ い。
Invalid parameter.	コマンドの引数に指定した値に不正な値が 設定されている可能性があります。

Internal communication timeout has occurred in the cluster server. If it occurs frequently, set a longer	CLUSTERPRO の内部通信でタイムアウトが 発生しています。
timeout.	頻出するようであれば、内部通信タイムアウト を長めに設定してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OS のリソース不足が 考えられます。確認してください。
This command is already run.	本コマンドは既に実行されています。
	本コマンドは二重起動できません。
The cluster is not created.	クラスタ構成情報を作成し、反映してください。
Could not connect to the server. Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OS のリソース不足が 考えられます。確認してください。
Cluster is stopped. Check if the cluster daemon is active.	CLUSTERPRO デーモンが起動しているか 確認してください。
Cluster is suspended. To display the cluster status, uselocal option.	クラスタがサスペンド状態です。 クラスタの状態を表示するには、localオ プションを使用してください。

サービスを操作する (clpcl コマンド)

clpcl

セクション ||

CLUSTERPRO サービスを操作します。

コマンドライン

```
clpcl -s
clpcl -t [-w <timeout>] [--apito timeout]
clpcl -r [-w <timeout>] [--apito timeout]
clpcl --return
clpcl --suspend [--force] [-w <timeout>] [--apito timeout]
clpcl --resume
```

説明 CLUSTERPRO サービスの起動、停止、復帰、サスペンド、リジュー ムなどを実行します。

オプション	-S	CLUSTERPRO サービスを起動します。
	-t	CLUSTERPRO サービスを停止します。
	-r	CLUSTERPRO サービスを再起動します。
	return	CLUSTERPRO サービスを復帰します。
	suspend	CLUSTERPRO サービスをサスペンドします。
	resume	CLUSTERPRO サービスをリジュームします。
	-w <timeout></timeout>	-t、-r、suspend オプションの場合にのみ clpcl コ マンドが CLUSTERPRO サービスの停止または サスペンドの完了を待ち合わせる時間を秒単位で 指定します。
		Timeout の指定がない場合、無限に待ち合わせ を行います。
		Timeout に "O" を指定した場合、待ち合わせを 行いません。
		-w オプションを指定しない場合(デフォルト)は、
		ハートビートタイムアウト× 2 秒の間、待ち合わ せを行います。
	force	suspend オプションと一緒に用いることで、サー バの状態に関わらず強制的にサスペンドを実行し ます。
	apito <i>timeout</i>	CLUSTERPRO デーモンの停止、再起動、サス ペンドを待ち合わせる時間(内部通信タイムアウ ト)を秒単位で指定します。1-9999の値が指定でき ます。 [apito] オプション指定しない場合は、クラスタプ
コマンドリファ	レンス	

ロパティの内部通信タイムアウトに設定された値に 従い、待ち合わせを行います。

- 戻り値0成功0以外異常
- 備考本コマンドを -s または --resume オプションで実行した場合、対象のサーバで処理が開始したタイミングで制御を戻します。
 -t または --suspend オプションで実行した場合、処理の完了を待ち合わせてから制御を戻します。
 -r オプションで実行した場合、対象のサーバで CLUSTERPRO デーモンが一度停止し、起動を開始したタイミングで制御を戻します。
 CLUSTERPRO デーモンの起動またはリジュームの状況は clpstat コマンドで確認してください。

注意事項 本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。 本コマンドはグループの起動処理中、停止処理中に実行できません。 サスペンドを実行する場合は、CLUSTERPRO サービスが起動した状態で実行してください。 リジュームを実行する場合は、clpstatコマンドを用いてCLUSTERPRO サービスが起動していないかを確認してください。

◆ サスペンド・リジュームについて

構成情報の更新、CLUSTERPRO X SingleServerSafe のアップデートなどを行いたい 場合に、業務を継続したまま、CLUSTERPRO サービスを停止させることができます。こ の状態をサスペンドといいます。サスペンド状態から通常の業務状態に戻ることをリ ジュームといいます。

サスペンド・リジュームはサーバに対して処理を要求します。サスペンドは、 CLUSTERPRO サービスが起動した状態で実行してください。

サスペンド状態では、活性していたリソースはそのまま活性した状態で CLUSTERPRO サービスが停止するため以下の機能が停止します。

- 全てのモニタリソースが停止します。
- ・ グループまたはグループリソースの操作ができなくなります。(起動、停止)
- WebManager および clpstat コマンドでの状態の表示または操作ができなくなります。
- ・ 以下のコマンドが使用不可となります。
 - clpstat
 - clpcl の –resume 以外のオプション
 - clpstdn
 - clpgrp
 - clprsc
 - clptoratio
 - clpmonctrl

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as administrator.	Administrator 権限を持つユーザで 実行してください。
Invalid configuration file. Create valid cluster configuration data by using the Builder.	Builder で正しいクラスタ構成情報を 作成してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Performed stop processing to the stopped cluster service.	停止している CLUSTERPRO サービスに 対して停止処理を実行しました。
Performed startup processing to the active cluster service.	起動している CLUSTERPRO サービスに 対して起動処理を実行しました。
Command timeout.	コマンドがタイムアウトしました。
Failed to return the server. Check the status of failed server.	サーバの復帰に失敗しました。処理に失敗 したサーバの状態を確認してください。
Could not connect to the server. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが 起動しているか確認してください。
Could not connect to the data transfer server. Check if the server has started up.	サーバが起動しているか確認してください。
Failed to obtain the list of nodes. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を 指定してください。
Failed to obtain the service name.	サービス名の取得に失敗しました。
Failed to operate the service.	サービスの制御に失敗しました。
Resumed the cluster service that is not suspended.	サスペンド状態ではない CLUSTERPRO サービスに対して、リジューム処理を実行 しました。
Invalid server status.	CLUSTERPRO サービスが 起動しているか確認してください。
Server is busy. Check if this command is already run.	既に本コマンドを実行している可能性が あります。確認してください。
Server is not active. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが 起動しているか確認してください。
There is one or more servers of which cluster service is active. If you want to perform resume, check if there is any server whose cluster service is active in the cluster.	リジュームを実行する場合、クラスタ内に CLUSTERPRO サービスが起動している サーバがないか確認してください。
All servers must be activated. When suspending the server, the cluster service needs to be active on all servers in the cluster.	サスペンドを実行する場合、クラスタ内の全て のサーバで、CLUSTERPRO サービスが 起動している必要があります。
Resume the server because there is one or more suspended servers in the cluster.	クラスタ内にサスペンドしているサーバが あるので、リジュームを実行してください。
Invalid server name. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を 指定してください。

メッセージ	原因/対処法
Connection was lost. Check if there is a server where the cluster service is stopped in the cluster.	クラスタ内に CLUSTERPRO サービスが停 止しているサーバがないか確認してください。
Invalid parameter.	コマンドの引数に指定した値に不正な値が 設定されている可能性があります。
Internal communication timeout has occurred in the cluster server. If it occurs frequently, set the longer	CLUSTERPRO の内部通信で タイムアウトが発生しています。
timeout.	頻出するようであれば、内部通信タイムアウト を長めに設定してみてください。
Processing failed on some servers. Check the status of failed servers.	全サーバ指定で停止処理を実行した場合、 処理に失敗したサーバが存在します。
	処理に失敗したサーバの 状態を確認してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OS のリソース不足が 考えられます。確認してください。

サーバをシャットダウンする (clpstdn コマンド)

clpstdn	サーバをシャ	ットダウンします。
コマンドライン clpstdn [-	r]	
説明	サーバの CLUS	TERPRO サービスを停止し、シャットダウンします。
オプション	オプションなし -r	サーバのシャットダウンを実行します。 サーバのシャットダウンリブートを実行します。
戻り値	0 0 以外	成功 異常
備考	本コマンドは、グ す。	ループ停止処理が完了したタイミングで制御を戻しま
注意事項	本コマンドは、Adı 本コマンドはグル・	ministrator 権限を持つユーザで実行してください。 ープの起動処理中、停止処理中に実行できません。
エラーメッセー	ジ	

61 ページの「サービスを操作する (clpcl コマンド)」を参照してください。

セクション || コマンドリファレンス

グループを操作する (clpgrp コマンド)

clpgrp	グループを搏	桑作します。
コマンドラ	イン	
clpgrp	-s [<grpname>] </grpname>	[apito <i>timeout</i>]
clpgrp	-t [<grpname>] </grpname>	[apito <i>timeout</i>]
説明	グループの起動.	、停止を実行します。
オプション	-s [<i><grpnam< i="">e>]</grpnam<></i>	グループを起動します。グループ名を指定すると、 指定されたグループのみ起動します。グループ名 の指定がない場合は、全てのグループが起動され ます。
	-t [<i><grpname></grpname></i>]	グループを停止します。グループ名を指定すると、 指定されたグループのみ停止します。グループ名 の指定がない場合は、全てのグループが停止され ます。
	apito <i>timeout</i>	グループの起動、停止を待ち合わせる時間(内部 通信タイムアウト)を秒単位で指定します。1-9999 の値が指定できます。
		[apito] オプション指定しない場合は、クラスタプ ロパティの内部通信タイムアウトに設定された値に 従い、待ち合わせを行います。
戻り値	0	成功
	0 以外	異常

- 注意事項 本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。 CLUSTERPRO サービスが起動している必要があります。
- エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as administrator.	Administrator 権限を持つユーザで 実行してください。
Invalid configuration data. Create valid cluster configuration data by using the Builder.	Builder で正しいクラスタ構成情報を 作成してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Could not connect to the server. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが 起動しているか確認してください。

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 4.0 for Windows 操作ガイド

メッセージ	原因/対処法
Invalid server status. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが 起動しているか確認してください。
Server is not active. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが 起動しているか確認してください。
Invalid server name. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を 指定してください。
Connection was lost. Check if there is a server where the cluster service is stopped in the cluster.	クラスタ内に CLUSTERPRO サービスが停 止しているサーバがないか確認してください。
Invalid parameter.	コマンドの引数に指定した値に不正な値が 設定されている可能性があります。
Internal communication timeout has occurred in the cluster server. If it occurs frequently, set a longer	CLUSTERPRO の内部通信で タイムアウトが発生しています。
timeout.	頻出するようであれば、内部通信タイムアウト を長めに設定してください。
Invalid server. Specify a server that can run and stop the group, or a server that can be a target when you	グループを起動、停止、移動する先の サーバが不正です。
move the group.	正しいサーバを指定してください。
Could not start the group. Try it again after the other server is started, or after the Wait Synchronization time is timed out.	他サーバが起動するのを待つか、起動待ち 時間がタイムアウトするのを待って、グループ を起動させてください。
No operable group exists in the server.	処理を要求したサーバに処理可能なグループ が存在するか確認してください。
The group has already been started on the local server.	WebManager や、[clpstat] コマンドで グループの状態を確認してください。
The group has already been started on the other server. To start/stop the group on the local server, use -f	WebManager や、[clpstat] コマンドで グループの状態を確認してください。
option.	他サーバで起動しているグループを自サーバ で起動/停止させたい場合は、グループの移動 を実行するか、[-f]オプションを加えて実行し てください。
The group has already been stopped.	WebManager や、[clpstat] コマンドで グループの状態を確認してください。
Failed to start one or more resources. Check the status of group.	WebManager や、[clpstat] コマンドで グループの状態を確認してください。
Failed to stop one or more resources. Check the status of group.	WebManager や、[clpstat] コマンドで グループの状態を確認してください。
The group is busy. Try again later.	グループが起動処理中、もしくは停止処理中 なので、しばらく待ってから実行してください。
An error occurred on one or more groups. Check the status of group.	WebManager や、[clpstat] コマンドで グループの状態を確認してください。
Invalid group name. Specify a valid group name in the cluster.	クラスタ内の正しいグループ名を 指定してください。
Server is isolated.	サーバが保留 (ダウン後再起動) 状態です。

メッセージ	原因/対処法		
Some invalid status. Check the status of cluster.	何らかの不正な状態です。 クラスタの状態を確認してください。		
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OS のリソース不足が 考えられます。確認してください。		
Failed to migrate the group.	[-l] オプションの場合は、指定されたグループ のタイプが、マイグレーションが可能な、仮想 マシンタイプであるか確認してください。		
The specified group cannot be migrated.	グループの状態を確認してください。		
The specified group is not vm group.	グループのタイプが仮想マシンに 設定されているか確認してください。		
Migration resource does not exist.	グループに仮想マシンリソースが 存在していることを確認してください。		
Migration resource is not online.	仮想マシンリソースが 起動しているか確認してください。		
Server is not in a condition to start group. Critical monitor error is detected.	各サーバの状態を確認してください。		
There is no appropriate destination for the group. Critical monitor error is detected.	各サーバの状態を確認してください。		

ログを収集する (clplogcc コマンド)

clplogcc	ログを収集しま	きす。
コマンドライン		
clplogcc	[-t collect_type	e] [-o path] [local] [evt event_type]
説明	ログ、OS 情報等を	を収集します。
オプション	なし	ログを収集します。
	-t collect_type	ログ収集パターンを指定します。省略した場合のロ グ収集パターンは type1 です。
	-o path	収集ファイルの出力先を指定します。省略した場 合は、インストールパスの tmp 配下にログが出 力されます。
	local	データ転送サーバを経由せずにローカルサーバの ログを収集します。
	evt event_type	収集するイベントログの種類を指定します。 省略した場合は、アプリケーションログ、システム ログ、セキュリティログが収集されます。 [local] オプション指定時のみ有効です。 詳細については、"収集するイベントログの種類の 指定 (evt オプション)"で説明します。
戻り値	0	成功
	0 以外	異常
備考	ログファイルは o リケーションを利り	cab で圧縮されているので、cab を解凍可能なアプ 用して解凍してください。
注意事項	本コマンドは、Ad	ministrator 権限を持つユーザで実行してください。
	ログファイルサイ 収集に失敗します を変更してくださし	ズが2GBを超えた場合、圧縮形式の仕様によりログ ト。収集対象のログを調整するか、ログ収集パターン い。

実行結果

本コマンドの結果で表示される処理過程は以下になります。

処理過程	説明
Preparing	初期化中
Connecting	サーバ接続中
Compressing	ログファイル圧縮中
Transmitting	ログファイル送信中
Disconnecting	サーバ切断中
Completion	ログ収集完了

実行結果(サーバ状態)については以下になります。

実行結果(サーバ状態)	説明
Normal	正常終了しました。
Canceled	ユーザによってキャンセルされました。
Invalid Parameters	パラメータ不正です。
Compression Error	圧縮エラーが発生しました。
Communication Error	送信エラーが発生しました。
Timeout	タイムアウトしました。
Busy	サーバがビジー状態です。
No Free Space	ディスクに空き容量がありません。
File I/O Error	ファイルI/Oエラーが発生しました。
Unknown Error	その他のエラーによる失敗です。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法	
Log in as administrator.	Administrator 権限を持つユーザで 実行してください。	
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。	
Collect type must be specified 'type1' or 'type2' or 'type3' or 'type4'. Incorrect collection type is specified.	収集タイプの指定が間違っています。	
Specifiable number of servers is the max number of servers that can constitute a cluster.	指定可能なサーバ数は、クラスタ構成可能な 最大サーバ数です。	
Failed to obtain properties.	プロパティの取得に失敗しました。	
Failed to obtain the list of nodes. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を 指定してください。	
Invalid server name. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を 指定してください。	
Failed to collect log.	ログ収集が失敗しました。	

メッセージ	原因/対処法		
Server is busy. Check if this command is already run.	既に本コマンドを実行している可能性が あります。確認してください。		
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が 考えられます。確認してください。		

タイプを指定したログの収集 (-t オプション)

指定したタイプのログのみを収集したい場合は、clplogcc コマンドで -t オプションを指定して 実行します。

ログの収集タイプは type1~4 までを指定します。

	type1	type2	type3	type4
(1) デフォルト収集情報	0	0	0	×
(2) イベントログ	0	0	0	0
(3) Windows エラーレポート	0	0	0	0
(4) ユーザダンプ	0	0	×	×
(5) 診断プログラムレポート	0	0	×	×
(6) レジストリ	0	0	0	×
(7) スクリプト	0	0	0	×
(8) ESMPRO/AC、ESMPRO/UPSC のログ	0	0	0	×
(9) HA ログ	×	0	×	×

コマンドラインからは以下のように実行します。

実行例:収集タイプ type2 でログ収集を行う場合。

clplogcc -t type2

オプションを指定しない場合のログ収集タイプは type1 です。

デフォルト収集情報

- CLUSTERPRO サーバの各モジュールログ
 - CLUSTERPRO サーバの各モジュールの属性情報 (dir)
 - Bin 配下
 - alert¥bin、webmgr¥bin 配下
 - %SystemRoot%¥system32¥drivers 配下
- CLUSTERPRO X SingleServerSafe のバージョン情報
- OS 情報
- アップデートログ
- ライセンス情報
- 設定ファイル
- ・ ポリシーファイル
- 共有メモリのダンプ
- CLUSTERPRO のステータス(clpstat --local の実行結果)
- ホスト名、ドメイン名情報 (hostname の実行結果)
- ネットワーク情報 (netstat の実行結果)
- IP ルーティングテーブル情報 (route print の実行結果)

- プロセス存在状況 (tasklist の実行結果)
- ・ ipconfig (ipconfig の実行結果)
- ファイルの共有設定 (net share の実行結果)
- セッション情報 (net session の実行結果)
- Windows ファイアウォールの設定 (netsh の実行結果)
- ・ SNP (Scalable Networking Pack)の設定 (netsh の実行結果)
- ・ タスクスケジューラの設定 (schtasks の実行結果)

イベントログ

- アプリケーションログ (AppEvent.Evt, Application.evtx)
- システムログ (SysEvent.Evt, System.evtx)
- セキュリティログ (SecEvent.Evt, Security.evtx)

Windows エラーレポート

- ***.wer
- ユーザダンプ

• ***.*dmp

診断プログラムレポート

msinfo32.exe コマンドの実行結果

レジストリ

- CLUSTERPRO サーバのレジストリ情報
 - HKLM¥SOFTWARE¥NEC¥CLUSTERPRO¥Alert
 - HKLM¥SOFTWARE¥NEC¥CLUSTERPRO¥MirrorList
 - HKLM¥SOFTWARE¥NEC¥CLUSTERPRO¥RC
 - HKLM¥SOFTWARE¥NEC¥CLUSTERPRO¥VCOM
 - Diskfltr のレジストリ情報
- OS のレジストリ情報
 - HKLM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥Disk
 - HKLM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Control¥Session Manager¥DOS Devices
 - HKLM¥SYSTEM¥MountedDevices
 - HKLM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Enum¥SCSI
 - HKLM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Enum¥STORAGE
 - HKLM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥symc8xx
 - HKLM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Control¥FileSystem

スクリプト

Builder で作成されたグループ起動/停止スクリプト

上記以外のユーザ定義スクリプトを指定した場合は、ログ収集の採取情報に含まれないため、別途採取する必要があります。

ESMPRO/AC、ESMPRO/UPSC のログ

acupslog.exe コマンドの実行により収集されるファイル

HA ログ

- システムリソース情報
- JVM モニタログ
- システムモニタログ

ログファイルの出力先 (-o オプション)

- ◆ ファイル名は、「サーバ名-log.cab」で保存されます。
- ◆ ログファイルは cab で圧縮されているので、cab を解凍可能なアプリケーションを利用して解凍してください。
-o オプションを指定しない場合

インストールパスの tmp 配下にログが出力されます。

-o オプションを指定する場合

以下のようにコマンドを実行すると、指定したディレクトリ C:¥tmp 配下にログが出力されます。

```
# clplogcc -o C:¥tmp
```

収集するイベントログの種類の指定 (--evt オプション)

ログ収集で採取される情報に含まれるイベントログの種類を指定することができます。

[--evt] オプションに続けて、収集するイベントログを示す下記のいずれか、または、一つ以上の組み合わせを指定します。

イベントログの種類	指定文字
アプリケーションログ	арр
システムログ	sys
セキュリティログ	sec

例)システムログとセキュリティログを収集する場合

clplogcc --local --evt sys sec

◆ [--local] オプション指定時のみ有効です。

緊急OSシャットダウン時の情報採取

CLUSTERPRO サービスが、内部ステータス異常による終了などで異常終了した場合に、OS のリソース情報を採取します。

採取する情報は以下です。

- ◆ 情報
 - ・ CLUSTERPRO サーバの一部のモジュールログ
- ◆ コマンド実行による情報
 - ホスト名、ドメイン名情報 (hostname の実行結果)
 - ネットワーク情報 (netstat の実行結果)
 - プロセス存在状況 (tasklist の実行結果)
 - ipconfig (ipconfig の実行結果)
 - ファイルの共有設定 (net share の実行結果)
 - セッション情報 (net session の実行結果)

この情報はログ収集のデフォルト収集情報として採取されるため、別途採取する必要はありません。

構成情報の反映、バックアップを実行する (clpcfctrl コマンド)

```
構成情報を反映する (clpcfctrl --push)
```

0 以外

clpcfctrl --push 構成情報をサーバに反映します。

コマンドライン

clpcfctrl --push [-w] [-x <path>] [-p <portnumber>] [--nocheck]

説明 Builder で作成した構成情報をサーバに反映します。

オプション	push	反映時に指定します。
		省略できません。
	-x	指定したディレクトリにある構成情報を反映する場 合に指定します。
	-W	構成情報ファイルの文字コードが SJIS であること を示します。
		通常は本オプションを省略可能です。
	-р	データ転送ポートのポート番号を指定します。
		省略時は初期値を使用します。通常は指定の必 要はありません。
	nocheck	変更を反映させるために必要な操作のチェックを 行わずに配信します。配信した構成情報を反映さ せるためには必要に応じた操作を手動で実行する 必要があります。
戻り値	0	成功

注意事項 本コマンドは Administrator 権限を持つユーザで実行してください。 構成情報反映時に、現在の構成情報と反映予定の構成情報を比較し ます。 構成内容に変更がある場合は、以下のメッセージが出力されます。 メッセージの指示に従い、サービス操作 / グループ操作を行ってか ら、再度本コマンドを実行してください。

異常

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 4.0 for Windows 操作ガイド

メッセージ	対処法
Please stop CLUSTERPRO Server.	サーバを停止してください。
Please suspend CLUSTERPRO Server.	サーバをサスペンドしてください。
Please stop the following groups.	設定を変更したグループを停止して ください。
Reboot of a cluster is necessary to reflect setting.	設定を反映するには、クラスタシャッ トダウン・リブートを実行してくださ い。
To apply the changes you made, restart the CLUSTERPRO Web Alert service.	設定を反映するには、 CLUSTERPRO Web アラートサー ビスを再起動してください。
To apply the changes you made, restart the CLUSTERPRO Manager service.	設定を反映するには、 CLUSTERPRO Manager サービ スを再起動してください。
Start of a cluster is necessary to reflect setting.	初回構築時のメッセージです。クラ スタ開始を実行してください。

--nocheck オプションは保守手順などの特別な用途においてのみ使用します。通常の操作では使用しないでください。

エラー	-メッセ・	-ジ
	//	-

メッセージ	原因/対処法
Log in as administrator.	Administrator ユーザで実行してください。
This command is already run.	本コマンドはすでに起動されています。
Invalid option.	オプションが不正です。 オプションを確認してください。
Invalid mode. Check if -push or -pull option is specified.	[push] を指定しているか確認してください。
Invalid host name. Server specified by -h option is not included in the configuration data	[-h] で指定したサーバが構成情報に含まれて いません。指定したサーバ名または IP アドレス が正しいか確認してください。
 Failed to initialize the xml library. Check if memory or OS resources are sufficient. Failed to load the configuration file. Check if memory or OS resources are sufficient. Failed to change the configuration file. Check if memory or OS resources are sufficient. 	メモリ不足または OS のリソース不足が 考えられます。確認してください。
Failed to load the all.pol file. Reinstall the cluster.	CLUSTERPRO サーバを 再インストールしてください。
Failed to load the cfctrl.pol file. Reinstall the cluster.	CLUSTERPRO サーバを 再インストールしてください。
Failed to get the install path. Reinstall the cluster.	CLUSTERPRO サーバを 再インストールしてください。
Failed to initialize the trncl library. Check if	メモリ不足または OS のリソース不足が

セクション || コマンドリファレンス

メッセージ	原因/対処法
memory or OS resources are sufficient.	考えられます。確認してください。
Failed to connect to trnsv. Check if the other server is active.	サーバとの接続に失敗しました。他のサーバが 起動しているか確認してください。
Failed to get the list of node. Check if the server specified by -c is a member of the cluster.	[-c] で指定したサーバがクラスタのメンバか どうか確認してください。
File delivery failed. Failed to deliver the configuration data. Check if the other server is active and run the command again.	構成情報の配信に失敗しました。他のサーバが 起動しているか確認してください。 サーバ起動後、再度コマンドを 実行してください。
Multi file delivery failed. Failed to deliver the configuration data. Check if the other server is active and run the command again.	構成情報の配信に失敗しました。他のサーバが 起動しているか確認してください。 サーバ起動後、再度コマンドを 実行してください。
Failed to deliver the configuration data. Check if the other server is active and run the command again.	構成情報の配信に失敗しました。他のサーバが 起動しているか確認してください。 サーバ起動後、再度コマンドを 実行してください。
Failed to upload the configuration file. Check if the other server is active and run the command again.	構成情報の配信に失敗しました。他のサーバが 起動しているか確認してください。
Canceled to deliver the configuration file since it failed to connect to one or more server. If you want to deliver the configuration file to servers that can be connected, run the command again with "-force" option.	構成情報の配信を中止しました。接続に失敗 したサーバがあります。もし接続可能なサーバ のみ構成情報を配信したい場合は、[force] オプションを用いて再度コマンドを実行して ください。
The directory "work" is not found. Reinstall the cluster.	CLUSTERPRO サーバを 再インストールしてください。
Failed to make a working directory.The directory does not exist.This is not a directory.The source file does not exist.The source file is a directory.The source directory does not exist.The source file is not a directory.Failed to change the character code set(EUC to SJIS).Failed to change the character code set(SJIS to EUC).Failed to allocate memory.	メモリ不足または OS のリソース不足が 考えられます。確認してください。
Failed to change the directory. Failed to make a directory. Failed to remove the directory. Failed to remove the file. Failed to open the file. Failed to read the file. Failed to copy the file. Failed to create the mutex. Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メ モ リインレス不足が 考えられます。確認してください。
Failed to check server property. Check if the server name or ip addresses are correct by builder.	構成情報のサーバ名と IP アドレスが正しく 設定されているか確認してください。
Please stop the following resources.	設定を変更したリソースを停止してください。

構成情報をバックアップする (clpcfctrl --pull)

clpcfctrlpull	構成情報	をバックアップします。
コマンドライン clpcfctrl -	-pull [-w] [[-x <path>] [-p <portnumber>]</portnumber></path>
説明	Builder で使り	书するために構成情報をバックアップします。
オプション	pull	バックアップ時に指定します。 省略できません。
	-x	指定したディレクトリに構成情報をバックアップしま す。
	-W	構成情報を文字コード SJIS で保存します。
	-р	データ転送ポートのポート番号を指定します。
		省略時は初期値を使用します。通常は指定の必 要はありません。
戻り値	0	成功
	0 以外	異常

注意事項 本コマンドは Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as administrator.	Administrator ユーザで実行してください。
This command is already run.	すでに起動されています。
Invalid option.	オプションが不正です。 オプションを確認してください。
Invalid mode. Check if -push or -pull option is specified.	[pull] を指定しているか確認してください。
Failed to initialize the xml library. Check if memory or OS resources are sufficient. Failed to load the configuration file. Check if memory or OS resources are sufficient. Failed to change the configuration file.	メモリ不足または OS のリソース不足が 考えられます。確認してください。
Check if memory or OS resources are sufficient.	
Failed to load the all.pol file. Reinstall the cluster.	CLUSTERPRO サーバを

セクション || コマンドリファレンス

メッセージ	原因/対処法
	再インストールしてください。
Failed to load the cfctrl.pol file. Reinstall the cluster.	CLUSTERPRO サーバを 再インストールしてください。
Failed to get the install path. Reinstall the cluster.	CLUSTERPRO サーバを 再インストールしてください。
Failed to initialize the trncl library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が 考えられます。確認してください。
Failed to connect to trnsv. Check if the other server is active.	サーバとの接続に失敗しました。他のサーバが 起動しているか確認してください。
The directory "work" is not found. Reinstall the cluster.	CLUSTERPRO サーバを 再インストールしてください。
Failed to make a working directory. The directory does not exist. This is not a directory. The source file does not exist. The source file is a directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が 考えられます。確認してください。
The source directory does not exist. The source file is not a directory. Failed to change the character code set (EUC to SJIS). Failed to change the character code set (SJIS to EUC).	
Failed to allocate memory. Failed to change the directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が 考えられます。確認してください。
Failed to make a directory.Failed to remove the directory.Failed to remove the file.Failed to open the file.Failed to read he file.Failed to write the file.Failed to copy the file.Failed to create the mutex.Internal error. Check if memory or OS	

タイムアウトを一時調整する (clptoratio コマンド)

clptoratio	現在のタイムフ	⁷ウト倍率の延長、表示を行います。
コマンドライン clptoratio clptoratio clptoratio	-r <ratio> -t -i -s</ratio>	<time></time>
説明	以下の各種タイム ・ モニタリソース ・ アラート同期サー ・ WebManager 現在のタイムアウト	アウト値を一時的に延長します。 ービス サービス ・倍率を表示します。
オプション	-r <i>rati</i> o	タイムアウト倍率を指定します。1 以上の整数値 で設定してください。最大タイムアウト倍率は 10000 倍です。
		「1」を指定した場合、-i オプションと同様に、変更 したタイムアウト倍率を元に戻すことができます。
	-t time	延長期間を指定します。 分 m、時間 h、日 d が指定できます。最大延長 期間は 30 日です。 例) 2m、3h、4d
	-i	変更したタイムアウト倍率を元に戻します。
	-S	現在のタイムアウト倍率を参照します。
戻り値	0	成功
	0 以外	異常
備考	サーバのシャット 効になります。	ダウンを実行すると、設定したタイムアウト倍率は無
	-s オプションで参 延長期間の残り間	╘照できるのは、現在のタイムアウト倍率のみです。 時間などは参照できません。
	状態表示コマンド	を用いて、元のタイムアウト値を参照できます。
	モニタリソースタ detail	イムアウト# clpstatmon モニタリソース名
注意事項	本コマンドは、Adı	ministrator 権限を持つユーザで実行してください。
	CLUSTERPRO	サービスが起動した状態で実行してください。

タイムアウト倍率を設定する場合、延長期間の指定は必ず行ってくだ さい。しかし、タイムアウト倍率指定に「1」を指定した場合は、延長 期間を指定することはできません。

延長期間指定に、「2m3h」などの組み合わせはできません。

実行例 例1:タイムアウト倍率を3日間2倍にする場合

clptoratio -r 2 -t 3d

例2:タイムアウト倍率を元に戻す場合

clptoratio -i

例 3:現在のタイムアウト倍率を参照する場合

```
# clptoratio -s
present toratio : 2
```

現在のタイムアウト倍率は 2 で設定されていることが分かります。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as administrator.	Administrator 権限を持つユーザで 実行してください。
Invalid configuration file. Create valid cluster configuration data by using the Builder.	Builder で正しいクラスタ構成情報を 作成してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Specify a number in a valid range.	正しい範囲で数字を指定してください。
Specify a correct number.	正しい数字で指定してください。
Scale factor must be specified by integer value of 1 or more.	倍率は 1 以上の整数値で指定してください。
Specify scale factor in a range less than the maximum scale factor.	最大倍率を超えない範囲で 倍率を指定してください。
Set the correct extension period. Ex) 2m, 3h, 4d	正しい延長期間の設定をしてください。
Set the extension period in a range less than the maximum extension period.	最大延長期間を超えない範囲で 延長期間を設定してください。
Could not connect to the server. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが 起動しているか確認してください。
Server is not active. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが 起動しているか確認してください。
Connection was lost. Check if there is a server where the cluster service is stopped in the cluster.	クラスタ内に CLUSTERPRO サービスが停 止しているサーバがないか確認してください。
Invalid parameter.	コマンドの引数に指定した値に不正な値が 設定されている可能性があります。
Internal communication timeout has occurred in the cluster server. If it occurs frequently, set a longer	CLUSTERPRO の内部通信で タイムアウトが発生しています。
timeout.	頻出するようであれば、内部通信タイムアウト を長めに設定してください。

メッセージ	原因/対処法
Processing failed on some servers. Check the status of failed servers.	処理に失敗したサーバが存在します。
	クラスタ内のサーバの状態を確認してくださ い。クラスタ内の全てのサーバが起動した 状態で実行してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が 考えられます。確認してください。

ログレベル/サイズを変更する (clplogcf コマンド)

clplo	ogcf	ログレベル、ログ	ログレベル、ログ出力ファイルサイズの設定の変更、表示を行います。	
	コマンドライン clplogcf -t	<type> -l <lev< td=""><td>vel> -s <size></size></td></lev<></type>	vel> -s <size></size>	
	説明	ログレベル、ログ出注 現在の設定値を表え	カファイルサイズの設定を変更します。 示します。	
	オプション	-t	設定を変更するモジュールタイプを指定します。 - と -s のいずれも省略した場合は、指定したモ ジュールタイプに設定されている情報を表示しま す。指定可能なタイプは「-t オプションに指定可 能なタイプ」の表を参照してください。	
		-1	ログレベルを指定します。 指定可能なログレベルは以下のいずれかです。	
			1、2、4、8、16、32	
			数値が大きいほど詳細なログが出力されます。	
		-S	ログを出力するファイルのサイズを指定します。 単位は byte です。	
		なし	現在設定されている全情報を表示します。	
	戻り値	0	成功	
		0 以外	異常	
	備考	CLUSTERPRO X SingleServerSafe が出力するログは、各タイプで 2 つのログファイルを使用します。このため —s で指定したサイズの 2 倍のディスク容量が必要です。		
	注意事項	本コマンドは Administrator 権限をもつユーザで実行してください。		
		本コマンドの実行には CLUSTERPRO Event サービスが動作してい る必要があります。		
		サーバを再起動すると変更した設定は元に戻ります。		
	実行例	例 1:pm のログレー #_clplogcf	ベルを変更する場合 -t.pm -1 8	
# clplogcf -t pm -l 8 例 2:pm の ログレベル、ログファイルサイズを参		~ デ ~ ベル、ログファイルサイズを参昭する場合		

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 4.0 for Windows 操作ガイド

clplogcf -t pm TYPE, LEVEL, SIZE pm, 8, 1000000

例3:現在の設定値を表示する場合

clplogcf TYPE, LEVEL, SIZE trnsv, 4, 1000000 xml, 4, 1000000 logcf, 4, 1000000

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as administrator.	Administrator ユーザで実行してください。
Invalid option.	オプションが不正です。オプションを確認してください。
Failed to change configuration. Check if the event service is running.	CLUSTERPRO Event サービスが起動 されていない可能性があります。
Invalid level.	指定したレベルが不正です。
Invalid size.	指定したサイズが不正です。
Failed to initialize the xml library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が 考えられます。確認してください。
Failed to print current configuration. Check if the event service is running.	CLUSTERPRO Event サービスが 起動されていない可能性があります。

[-t] オプションに指定可能なタイプ

タイプ	モジュール	説明
alert	clpaltinsert.exe	アラート
apicl	clpapicl.dll	API クライアントライブラリ
apicl_rc	clpapicl.dll	API クライアントライブラリ
apisv	clpapisv.dll	API サーバ
appli	clpappli.dll	アプリケーションリソース
appliw	clpappliw.dll	アプリケーション監視リソース
armdrive	armdrive.exe	ドライブ文字設定コマンド
bwctrl	clpbwctrl.exe	クラスタ起動同期待ち処理制御コマンド
cfctrl	clpcfctrl.exe	クラスタ生成、クラスタ情報バックアップコマンド
cl	clpcl.exe	クラスタ操作コマンド
clpdnld	clpdnld.exe	ダウンローダ
clpgetsvcstat	clptrnsv.exe	トランザクションサーバ
clpshmstat	clpshmstat.dll	ノードステータス管理ライブラリ
clsv	clpclsv.dll	クライアントサービス
commcl	clpcommcl.dll	汎用通信クライアントライブラリ
cpufreq	clpcpufreq.exe	CPU クロック制御コマンド

第2章 CLUSTERPRO X SingleServerSafe コマンドリファレンス

タイプ	モジュール	説明
diskperf	clpdiskperf.dll	ディスクパフォーマンスログ出力用ライブラリ
diskutil	clpdiskutil.dll	ミラーディスク/ディスク共通ライブラリ
diskw	clpdiskw.dll	ディスク RW 監視リソース
down	clpdown.exe	サーバシャットダウンコマンド
event	clpevent.dll	イベントログ
exping	clpexpng.dll	PING 実行管理
genw	genw.dll	カスタム監視リソース
grp	clpgrp.exe	グループ起動、停止、移動、マイグレーションコマンド
hblog	clplanhb.dll	カーネルモード LAN ハートビートリソース
healthchk	clphealthchk.exe	プロセス健全性確認コマンド
ipw	clpipw.dll	IP 監視リソース
lankhb	clplanhb.dll	カーネルモード LAN ハートビートリソース
lcns	clplcns.dll	ライセンスライブラリ
logc	clplogc.dll	ログ収集ライブラリ
logcc	clplogcc.exe	ログ収集コマンド
logcf	clplogcf.exe	ログレベル、サイズ変更コマンド
logcmd	clplogcmd.exe	アラート出力コマンド
mail	clpmail.exe	Mail 通報
mgtmib	clpmgtmib.dll	SNMP 連携ライブラリ
miiw	clpmiiw.dll	NIC Link Up/Down 監視リソース
monctrl	clpmonctrl.exe	モニタリソース制御コマンド
mrw	clpmrw.dll	外部連携監視リソース
mtw	clpmtw.dll	マルチターゲット監視リソース
nm	clpnm.exe	ノードマップ管理
oldapi	clpoldapi.exe	互換 API
oldapi_cnf	clpoldapi.exe	互換 API
oldapi_evt	clpoldapi.exe	互換 API
oldapi_if	clpoldapi.exe	互換 API
oldapi_sts	clpoldapi.exe	互換 API
pm	clppm	プロセス管理
pmsvc	clppmsvc.exe	プロセス管理
psw	clppsw.dll	プロセス名監視リソース
ptun	clpptun.dll	パラメータチューニング
ptunlib	clpptun.dll	パラメータチューニング
rc	clprc.exe	グループ、グループリソース管理
rc_ex	clprc.exe	グループ、グループリソース管理

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 4.0 for Windows 操作ガイド

タイプ	モジュール	説明
regctrl	clpregctrl.exe	再起動回数制御コマンド
resdllc	clpresdllc.dll	リソース制御ライブラリ
rm	clprm.dll	モニタ管理
script	clpscript.dll	スクリプトリソース
scrpc	clpscrpc.exe	スクリプト
scrpl	clpscrpl.exe	スクリプト
sem	clpsem.dll	セマフォライブラリ
service	clpservice.dll	サービスリソース
servicew	clpservicew.dll	サービス監視リソース
shmcm	clpshmcm.dll	共有メモリライブラリ
shmevt	clpshmevt.dll	イベントライブラリ
shmnm	clpshmnm.dll	共有メモリライブラリ
shmrm	clpshmrm.dll	共有メモリライブラリ
snmpmgr	clpsnmpmgr.dll	SNMP トラップ受信ライブラリ
startup	clpstartup.exe	スタートアップ
stat	clpstat.exe	ステータス表示コマンド
stdn	clpstdn.exe	クラスタシャットダウンコマンド
toratio	clptoratio.exe	タイムアウト倍率変更コマンド
trap	clptrap.exe	SNMP トラップ送信コマンド
trncl	clptrncl.dll	トランザクションライブラリ
trnreq	clptrnreq.exe	クラスタ間処理要求コマンド
rexec	clprexec.exe	外部監視連動処理要求コマンド
trnsv	clptrnsv.exe	トランザクションサーバ
userw	clpuserw.dll	ユーザ空間監視リソース
webalert	clpaltd.exe	アラート同期
webmgr	clpwebmc.exe	WebManager
xml	xlpxml.dll	XML ライブラリ
vm	clpvm.dll	仮想マシンリソース
vmw	clpvmw.dll	仮想マシン監視リソース
vmctrl	clpvmctrl.dll	VMCTRL ライブラリ

ログレベル・ログファイルサ	イズの既定値
---------------	--------

タイプ	レベル	サイズ(バイト)
alert	4	100000
apicl	4	500000
apicl_rc	4	500000
apisv	4	500000
appli	4	100000
appliw	4	100000
armdrive	4	100000
bwctrl	4	100000
cfctrl	4	100000
cl	4	100000
clpdnld	4	100000
clpgetsvcstat	4	100000
clpshmstat	4	100000
clsv	4	100000
cpufreq	4	100000
commcl	4	8000000
diskperf	8	200000
diskutil	4	100000
diskw	4	100000
down	4	100000
event	4	100000
exping	4	100000
genw	4	100000
grp	4	100000
hblog	4	100000
healthchk	4	100000
ipw	4	100000
lankhb	4	100000
lcns	4	100000
logc	4	100000
logcc	4	100000
logcf	4	100000
logcmd	4	100000
mail	4	100000
mgtmib	4	100000
miiw	4	1000000
monctrl	4	1000000

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 4.0 for Windows 操作ガイド

タイプ	レベル	サイズ(バイト)
mrw	4	100000
mtw	4	100000
nm	4	2000000
oldapi	4	100000
oldapi_cnf	4	100000
oldapi_evt	4	100000
oldapi_if	4	100000
oldapi_sts	4	100000
pm	4	100000
pmsvc	4	2000000
psw	4	100000
ptun	4	100000
ptunlib	4	100000
rc	4	500000
rc_ex	4	500000
regctrl	4	100000
resdllc	4	2000000
rm	4	500000
script	4	100000
scrpc	4	100000
scrpl	4	100000
sem	4	100000
service	4	100000
servicew	4	100000
shmcm	4	100000
shmevt	4	100000
shmnm	4	100000
shmrm	4	100000
snmpmgr	4	100000
startup	4	100000
stat	4	100000
stdn	4	100000
toratio	4	1000000
trap	4	100000
trncl	4	2000000
trnsv	4	2000000
trnreq	4	100000
userw	4	100000

セクション || コマンドリファレンス

タイプ	レベル	サイズ(バイト)
rexec	4	100000
webalert	4	100000
webmgr	4	100000
xml	4	100000
vm	4	100000
vmw	4	100000
vmctrl	4	100000
	合計	191000000 * 2

監視オプション製品で [-t] オプションに指定可能なタイプ

タイプ	モジュール	説明
db2w	clp_db2w.dll	DB2 監視 (Database Agent)
ftpw	clp_ftpw.dll	FTP 監視 (Internet Server Agent)
httpw	clp_httpw.dll	HTTP 監視 (Internet Server Agent)
imap4w	clp_imap4w.dll	IMAP4 監視 (Internet Server Agent)
jra	clpjrasvc.exe	JVM監視リソース (Java Resource Agent)
jraw	clpjraw.dll	JVM監視リソース (Java Resource Agent)
odbcw	clp_odbcw.dll	ODBC 監視 (Database Agent)
oraclew	clp_oraclew.dll	Oracle 監視 (Database Agent)
otxw	clp_otxw.dll	WebOTX 監視 (Application Server Agent)
pop3w	clp_pop3w.dll	POP3 監視 (Internet Server Agent)
psqlw	clp_psqlw.dll	PostgreSQL 監視 (Database Agent)
smtpw	clp_smtpw.dll	SMTP 監視 (Internet Server Agent)
sqlserverw	clp_sqlserverw.dll	SQL Server 監視 (Database Agent)
sra	clpsraserviceproc.exe	システム監視リソース (System Resource Agent)
sraw	clpsraw.dll	システム監視リソース (System Resource Agent)
tuxw	clp_tuxw.dll	Tuxedo 監視 (Application Server Agent)
wasw	clp_wasw.dll	Websphere 監視 (Application Server Agent)
wlsw	clp_wlsw.dll	Weblogic 監視 (Application Server Agent)

監視オプション製品のログレベル・ログファイルサイズの既定値

タイプ	レベル	サイズ(バイト)
db2w	4	100000
ftpw	4	100000
httpw	4	100000
imap4w	4	100000
jra	4	100000

jraw	4	100000
odbcw	4	100000
oraclew	4	100000
otxw	4	100000
pop3w	4	100000
psqlw	4	100000
smtpw	4	100000
sqlserverw	4	100000
sra	8	100000
sraw	4	100000
tuxw	4	100000
wasw	4	100000
wlsw	4	1000000
	合計	18000000 * 2

ライセンスを管理する (clplcnsc コマンド)

clplcnsc

ライセンスの管理を行います。

コマンドライン:

```
clplcnsc -i [licensefile...]
clplcnsc -l [-a]
clplcnsc -d serialno [-q]
clplcnsc -d -t [-q]
clplcnsc -d -a [-q]
```

説明本製品の製品版・試用版ライセンスの登録、参照、削除を行います。

オプション -i [licensefile...] ライセンスファイルを指定すると、そのファイルよりライセンス情報を取得し、登録します。ライセンスファイルは複数指定することができます。指定しなければ、対話形式によりライセンス情報を入力し登録します。

登録されているライセンスを参照します。表示する項目 -l [-a] を以下に示します。

	項目名	説明	
	Serial No	シリアルナン	バー (製品版のみ)
	User name	ユーザ名 (試	【用版のみ)
	Key	ライセンスキ・	_
	The number of license	ライセンス許	諾数
	Start date	有効期間開始	抬日※1 ※2
	End date	有効期間終了	了日※1 ※2
	Status	ライセンスの	状態
		状態	説明
		valid	有効
		invalid	無効
		unknown	不明
		inactive	有効期間開始前※1 ※2
		expired	有効期間終了後※1 ※2
	※1 期限付きライ	センスの場合	に表示します。
	※2 試用版ライセン	ンスの場合に	表示します。
	-a オプションを指け invalid, unknown, ません。	定しない場合 , expired で	は、ライセンスの状態が あるライセンスは表示し
	-a オプションを指う わらず、全てのライ	定した場合は インスを表示	、ライセンスの状態に関 ≂します。
-d serialno	指定したシリアルナ	ーンバーのライ	イセンスを削除します。
-d -t	登録されている全て	ての試用版ラ	イセンスを削除します。
-d -a	登録されている全つ	てのライセンス	スを削除します。
-q	ライセンスを削除す 削除します。-d オフ	トる時の確認 プションと一緒	メッセージを表示せずに 皆に指定してください。
0	正常終了		
1	キャンセル		
3	初期化エラー		
5	オプション不正		

- オプション不正
 - 8 その他内部エラー

戻り値

実行例 登録 対話形式

```
# clplcnsc -i
```

```
製品版、製品版(期限付き)
```

製品区分選択

Selection of License Version

- 1. Product Version
- 2. Trial Version
- e. Exit

Select License Version. [1, 2, or e (default:1)] ...

シリアルナンバー入力

Enter serial number [Ex. XXXXXXX000000] ...

ライセンスキー入力

Enter license key

[Ex. XXXXXXX-XXXXXXX-XXXXXX-XXXXXXX] ...

試用版

製品区分選択

Selection of License Version

- 1. Product Version
- 2. Trial Version
- e. Exit

Select License Version. [1, 2, or e (default:1)] ...

ユーザ名入力

Enter user name [1 to 63byte] ...

ライセンスキー入力

Enter license key
[Ex.XXXXXXX-XXXXXXX-XXXXXXX-XXXXXX]...

ライセンスファイル指定

```
# clplcnsc -i /tmp/cpulcns.key
```

```
参照 # clplcnsc -1
```

製品版

```
< CLUSTERPRO X SingleServerSafe <PRODUCT> >
Seq... 1
Serial No.... AAAAAAAA000001
Key.... A1234567-B1234567-C1234567-D1234567
The number of license... 2
Status... valid
```

製品版(期限付き)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 4.0 for Windows 操作ガイド

```
< CLUSTERPRO X SingleServerSafe <PRODUCT> >
   Seq... 1
   Serial No.... AAAAAAA000001
   Key.... A1234567-B1234567-C1234567-D1234567
   Start date.... 2018/01/01
   End date..... 2018/01/31
   Status..... valid
   Seq... 2
   Serial No.... AAAAAAAA000002
   Key..... E1234567-F1234567-G1234567-H1234567
   Status..... inactive
試用版
  < CLUSTERPRO X SingleServerSafe <TRIAL> >
   Seq... 1
   Key..... A1234567-B1234567-C1234567-D1234567
   User name... NEC
   Start date..... 2018/01/01
   End date..... 2018/02/28
   Status..... valid
 # clplcnsc -d AAAAAAA000001 -q
 # clplcnsc -d -t -q
 # clplcnsc -d -a
      削除確認
```

Are you sure to remove the license? [y/n] ...

注意事項 本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

-d オプション利用時に -a オプションを併用した場合、全ての試用版ラ イセンスおよび製品版ライセンスが削除されます。試用版ライセンスの み削除する場合は -t オプションを併用してください。製品版ライセンス も含めて削除してしまった場合は製品版ライセンスの再登録をしてください。

ライセンス参照時は、あるライセンスに複数のライセンスが包含されている場合、それぞれ個別に表示されます。

削除

削除

削除

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Processed license num (success : %d error : %d).	処理したライセンス数(成功:%d 失敗:%d) 失敗が 0 でない場合は、何らかの理由でライセンス処 理が失敗しています。 ライセンス情報が正しいか確認してください。
Command succeeded.	コマンドは成功しました。
Command failed.	コマンドは失敗しました。
Log in as administrator.	Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid cluster configuration data. Check it by using the Builder.	クラスタ構成情報が不正です。Builder でクラスタ構成 情報を確認してください。
Initialization error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。 確認してください。
The command is already run.	コマンドは、既に実行されています。
The license is not registered.	ライセンスが未登録状態です。
Could not opened the license file. Check if the license file exists on the specified path. Could not read the license file. Check if the license file exists on the specified path.	ライセンスファイルへの I/O ができません。ライセンス ファイルが指定されたパスに存在するか確認してくださ い。
The field format of the license file is invalid. The license file may be corrupted. Check the destination from where the file is sent.	ライセンスファイルのフィールド形式が不正です。ライセ ンスファイルが壊れている可能性があります。ファイルの 送付元に確認してください。
The cluster configuration data may be invalid or not registered.	クラスタ構成情報が不正または、未登録状態が 考えられます。確認してください。
Failed to terminate the library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。 確認してください。
Failed to register the license. Check if the entered license information is correct. Failed to open the license. Check if the entered license information is correct.	入力したライセンス情報が正しいか確認してください。
Failed to remove the license.	ライセンスの削除に失敗しました。パラメータ誤り、メモリ 不足、または OS のリソース不足が考えられます。確認 してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。 確認してください。

メッセージを出力する (clplogcmd コマンド)

clplogcmd 指定した文字列を alert に登録するコマンドです。

コマンドライン

clplogcmd -m message [-i ID] [-l level]

注:通常の構築や運用ではこのコマンドの実行は不要です。スクリプトリソースのスクリプトに 記述して使用するコマンドです。

説明 スクリプトリソースのスクリプトに記述し、任意のメッセージを出力先に 出力します。

メッセージは以下の形式で出力されます。

[ID] message

オプション	-m message	出力する文字列を message に指定します。省 略できません。Message の最大サイズは 498 バイトです。
		文字列には英語、数字、記号 ¹ が使用可能です。
	-i ID	メッセージ ID を指定します。 このパラメータは省略可能です。省略時には ID に 1 が設定されます。
	-l level	出力するアラートのレベルです。 ERR、WARN、INFO のいずれかを指定しま す。このレベルによって WebManager でのア ラートビューのアイコンを指定します。
		このパラメータは省略可能です。省略時には level に INFO が設定されます。 詳細は「第 1 章 WebManager の機能」の 「WebManager でアラートを確認する」を参照 してください。
戻り値	0	成功
	0 以外	異常

注意事項 本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。 -i オプションの仕様は Linux 版とは異なります。Windows 版ではア ラートに出力されるイベント ID は固定で、変更することはできません。

実行例

セクション || コマンドリファレンス

例 1: メッセージのみ指定する場合

スクリプトリソースのスクリプトに下記を記述した場合、alert に文字列を出力します。

clplogcmd -m test1

WebManager のアラートビューには、下記の alert が出力されます。

 受信時刻
 発生時刻
 サーバ名
 モジュール名
 イベントID
 メッセージ

 ①
 2006/06/29 18:21:27.515
 2006/06/29 18:21:27.343
 server1
 logcmd
 3601
 [1] test1

例 2: メッセージ、メッセージ ID、レベルを指定する場合

スクリプトリソースのスクリプトに下記を記述した場合、alert に文字列を出力します。

clplogcmd -m test2 -i 100 -l ERR

WebManager のアラートビューには、下記の alert が出力されます。

	受信時刻	発生時刻 ▼	サーバ名	モジュール名	イベントロ	メッセージ
-	2006/06/29 19:07:58.401	2006/06/29 19:07:58.229	server1	logcmd	3601	[100] test2

1 文字列に記号を含む場合の注意点は以下のとおりです。

""で囲む必要がある記号
 & | < >
 (例 "&"をメッセージに指定すると、& が出力されます。)

¥ を前につける必要がある記号

¥ (例 ¥¥ をメッセージに指定すると、¥ が出力されます。)

◆ 文字列にスペースを含む場合、""で囲む必要があります。

モニタリソースを制御する (clpmonctrl コマンド)

clpmonctrl モニタリソースの制御を行います。

コマンドライン:

clpmonctrl	-s	[-m	resource	name]	[-w	wait	time
clpmonctrl	-r	[-m	resource	name]	[-w	wait	time]
clpmonctrl	-c	[-m	resource	name]			
clpmonctrl	-v	[-m	resource	name]			
clpmonctrl	-e	-m re	esource_na	ame				
clpmonctrl	-n	[-m 1	resource_r	name]				

説明 モニタリソースの一時停止/再開を行います。

オプション	-s,suspend	監視を一時停止します。
	-r,resume	監視を再開します。
	-c,clear	回復動作の回数カウンタをリセットします。
	-v,view	回復動作の回数カウンタを表示します。
	-e,error	障害検証機能を有効にします。必ずm オプションで監 視リソース名を指定してください。
	-n,normal	障害検証機能を無効にします。 -m オプションで監視リ ソース名を指定した場合は、そのリソースのみが対象とな ります。 -m オプションを省略した場合は、全監視リソー スが対象となります。
	-m,monitor	制御するモニタリソースを単数または、複数で指定しま す。
		省略可能で、省略時は全てのモニタリソースに対して制 御を行います。
	-w,wait	モニタリソース単位で監視制御を待合わせます。 (秒)
		省略可能で、省略時は 5 秒が設定されます。
戻り値	0	正常終了
	1	実行権限不正
	2	オプション不正
	3	初期化エラー
	4	構成情報不正
	5	モニタリソース未登録
	6	指定モニタリソース不正
	10	CLUSTERPRO 未起動状態

セクション || コマンドリファレンス

11	CLUSTERPRO	サービスサス	ペンド状態
11		シ ヒハシハ	~~~~

- 90 監視制御待ちタイムアウト
- 128 二重起動
- 255 その他内部エラー
- 備考 既に一時停止状態にあるモニタリソースに一時停止を行った場合や既に 起動済状態にあるモニタリソースに再開を行った場合は、本コマンドは 正常終了し、モニタリソース状態は変更しません。
- 注意事項 本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

モニタリソースの状態は、状態表示コマンドまたは WebManager で確認してください。

clpstat コマンドまたは、WebManager でモニタリソースの状態が "起 動済" または、"一時停止" であることを確認後、実行してください。

監視タイミングが「活性時」のモニタリソースで対象リソースが活性状態 の時に一時停止し、その後対象リソースの活性または、対象リソースの 所属するグループの活性を行った場合、一時停止中のモニタリソースは 監視を開始しないため異常を検出することはできません。

例えば、以下の場合が該当します。

1. アプリケーションリソースを監視しているアプリケーション監視を 一時停止する。

2. アプリケーションリソースまたは、アプリケーションリソースが所属 するグループを再活性する。

上記は、手動による再活性を意味していますが監視異常時の回復動作による再活性も同様の動作となります。

モニタリソースの回復動作が下記のように設定されている場合、-v オプ ションで表示される "FinalAction Count" には「最終動作前スクリプト」 の実行回数が表示されます。

- 最終動作前にスクリプトを実行する: 有効
- 最終動作: "何もしない"

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Command succeeded.	コマンドは成功しました。
You are not authorized to run the command. Log in as Administrator.	コマンドの実行権がありません。 Administrator 権限を持つユーザで 実行してください。
Initialization error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が 考えられます。確認してください。
Invalid cluster configuration data. Check it by using the Builder.	クラスタ構成情報が不正です。Builder で クラスタ構成情報を確認してください。
Monitor resource is not registered.	モニタリソースが登録されていません。
Specified monitor resource is not registered. Check the cluster configuration information by using the	指定されたモニタリソースは、 登録されていません。
Builder.	Builder でクラスタ構成情報を 確認してください。
The cluster has been stopped. Check the active status of the cluster service by using the command such as ps command.	クラスタは、停止状態です。管理ツールの [サービス] で CLUSTERPRO Server サービスの起動状態を確認してください。
The cluster has been suspended. The cluster service has been suspended. Check activation status of the cluster service by using a command such as the ps command.	CLUSTERPRO サービスは、サスペンド 状態です。管理ツールの [サービス] で CLUSTERPRO Server サービスの起動 状態を確認してください。
Waiting for synchronization of the cluster The cluster is waiting for	クラスタは、同期待ち状態です。
synchronization. Wait for a while and try again.	クラスタ同期待ち完了後、 再度実行してください。
Monitor %1 was unregistered, ignored. The specified monitor resources %1is not registered, but continues processing. Check the cluster	指定されたモニタリソース中に登録されて いないモニタリソースがありますが、無視して 処理を継続します。
configuration data by using the Builder. %1: monitor resource name	Builder でクラスタ構成情報を確認して ください。
	%1 :モニタリソース名
The command is already executed. Check the execution state by using the "ps" command or some other command.	コマンドは、既に実行されています。 タスクマネージャなどで実行状態を 確認してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が 考えられます。確認してください。

タイプ	監視の一時停止/再開	回復動作の 回数カウンタ/リセット	障害検証機能の 有効化/無効化
appliw	0	0	0
diskw	0	0	0
ipw	0	0	0
miiw	0	0	0
mtw	0	0	0
servicew	0	0	0
genw	0	0	0
vmw	0	0	×
mrw	0	0	×
db2w	0	0	0
ftpw	0	0	0
httpw	0	0	0
imap4w	0	0	0
odbcw	0	0	0
oraclew	0	0	0
рор3w	0	0	0
psqlw	0	0	0
smtpw	0	0	0
sqlserverw	0	0	0
tuxw	0	0	0
wasw	0	0	0
wlsw	0	0	0
otxw	0	0	0
jraw	0	0	0
sraw	0	0	0
userw	0	0	0
psw	0	0	0

-m オプションに指定可能なモニタリソースタイプ

グループリソースを制御する (clprsc コマンド)

clpr	SC	グループリ	リソースの制御を行います。
	コマンドライン	1	
	clprsc -s	resource_nam	e [-f] [apito timeout]
	clprsc -t	resource_nam	e [-f] [apito timeout]
	説明	グループリソース	へを起動 / 停止します。
	オプション	-S	グループリソースを起動します。
		-t	グループリソースを停止します。
		-f	グループリソース起動時は、指定したグループリソースが 依存する全グループリソースを起動します。
			グループリソース停止時は、指定したグループリソースに 依存している全グループリソースを停止します。
		apito	グループリソースの起動、停止を待ち合わせる時間(内 部通信タイムアウト)を秒単位で指定します。1-9999の値 が指定できます。
			[apito] オプション指定しない場合は、クラスタプロパティ の内部通信タイムアウトに設定された値に従い、待ち合 わせを行います。
	戻り値	0	正常終了
		0 以外	異常終了

注意事項 本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。 グループリソースの状態は、状態表示コマンドまたは WebManager で 確認してください。

メッセージ	原因/対処
Log in as Administrator.	Administrator 権限を持つユーザで 実行してください。
Invalid cluster configuration data. Check it by using the Builder.	クラスタ構成情報が不正です。Builder でクラスタ 構成情報を確認してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Could not connect server. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが 起動しているか確認してください。

メッセージ	原因/対処
Invalid server status. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが 起動しているか確認してください。
Server is not active. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが 起動しているか確認してください。
Invalid server name. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を指定してください。
Connection was lost. Check if there is a server where the cluster service is stopped in the cluster.	クラスタ内に CLUSTERPRO サービスが 停止しているサーバがないか確認してください。
Internal communication timeout has occurred in the cluster server. If it occurs frequently, set the longer timeout.	CLUSTERPRO の内部通信で タイムアウトが発生しています。 頻出するようであれば、内部通信タイムアウトを 長めに設定してください。
The group resource is busy. Try again later.	グループリソースが起動処理中、もしくは停止処理中 のため、しばらく待ってから実行してください。
An error occurred on group resource. Check the status of group resource.	WebManager や、[clpstat] コマンドで グループリソースの状態を確認してください。
Could not start the group resource. Try it again after the other server is started, or after the Wait Synchronization time is timed out.	他サーバが起動するのを待つか、起動待ち時間が タイムアウトするのを待って、グループリソースを起動 させてください。
No operable group resource exists in the server.	処理を要求したサーバに処理可能なグループ リソースが存在するか確認してください。
The group resource has already been started on the local server.	WebManagerや、[clpstat] コマンドで グループリソースの状態を確認してください。
The group resource has already been started on the other server. To start the group resource on the local server, stop the group resource.	WebManager や、[clpstat] コマンドで グループリソースの状態を確認してください。
	グループリソースをローカルサーバで起動するには、 グループを停止してください。
The group resource has already been stopped.	WebManager や、[clpstat] コマンドで グループリソースの状態を確認してください。
Failed to start group resource. Check the status of group resource.	WebManager や、[clpstat] コマンドで グループリソースの状態を確認してください。
Failed to stop resource. Check the status of group resource.	WebManager や、[clpstat] コマンドで グループリソースの状態を確認してください。
Depending resource is not offline. Check the status of resource.	依存しているグループリソースの状態が停止済で ないため、グループリソースを停止できません。依存 しているグループリソースを停止するか、[-f] オプ ションを指定してください。
Depending resource is not online. Check the status of resource.	依存しているグループリソースの状態が起動済で ないため、グループリソースを起動できません。依存 しているグループリソースを起動するか、[-f] オプショ ンを指定してください。
Invalid group resource name. Specify a valid group resource name in the cluster.	グループリソースが登録されていません。
Server is isolated.	サーバが保留 (ダウン後再起動) 状態です。

メッセージ	原因/対処
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が 考えられます。確認してください。
Server is not in a condition to start resource. Critical monitor error is detected.	サーバの状態を確認してください。

clpcpufreq

CPU クロックを制御する (clpcpufreq コマンド)

CPUクロックの制御を行います。

```
コマンドライン:
clpcpufreq --high
clpcpufreq --low
clpcpufreq -i
clpcpufreq -s
説明
         CPU クロック制御による省電力モードの有効化/無効化を制御します。
オプション
         --high
                  CPU クロック数を最大にします。
         --low
                  CPU クロック数を下げて省電力モードにします。
         -i
                  CPU クロックの制御を CLUSTERPRO X
                  SingleServerSafe に戻します。
         -s
                  現在の設定状態を表示します。
                        クロック数を最大にしています。

    high

                         クロック数を下げて省電力モードにしていま

    low

                         す。
戻り値
                  正常終了
        0
        0 以外
                  異常終了
         「クラスタのプロパティ」の「拡張タブ」の設定で、「CPU クロック制御機
備考
         能を使用する」にチェックを入れていない場合、本コマンドを実行すると
         エラーとなります。
```

注意事項 本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。 CPU クロック制御機能を使用する場合、BIOS の設定でクロックの変

CPU クロック制御機能を使用する場合、BIOS の設定でクロックの変 更が可能になっていることと、CPU が Windows OS の電源管理機能 によるクロック制御をサポートしていることが必要となります。 エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Log in as Administrator.	Administrator 権限を持つユーザで 実行してください。
This command is already run.	本コマンドはすでに起動されています。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Invalid mode. Check ifhigh orlow or -i or -s option is specified.	[high], [low], [-l], [-s] いずれかのオプションが 指定されているか確認してください。
Failed to initialize the xml library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が 考えられます。確認してください。
Failed to change CPU frequency settings.	BIOS の設定、OS の設定を確認してください。
	クラスタが起動しているか確認してください。
	CPU クロック制御機能を使用する設定になっている か確認してください。
Failed to acquire CPU frequency settings.	BIOS の設定、OS の設定を確認してください。
	クラスタが起動しているか確認してください。
	CPU クロック制御機能を使用する設定になっている か確認してください。
Failed to create the mutex.	メモリ不足または OS のリソース不足が 考えられます。確認してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が 考えられます。確認してください。

クラスタ間連携を行う (clptrnreq コマンド)

Clptrnreq サーバへ処理実行を要求します。

コマンドライン:

clptrnreq -t request_code -h IP [-r resource_name] [-s script_file]
[-w timeout]

説明	指定した処理実行要求を他クラスタのサーバに発行します。	
オプション -t reques	-t request_code	実行する処理のリクエストコードを指定します。 以下のリクエストコードを指定することができます。
		GRP_FAILOVER グループフェイルオーバ
		EXEC_SCRIPT スクリプトの実行
	-h <i>IP</i>	処理実行要求を発行するサーバを IP アドレスで 指定します。カンマ区切りで複数指定することが 可能です。指定可能な IP アドレスの最大数は 32 です。
		リクエストコードにグループフェイルオーバを 指定する場合、クラスタ内の全てのサーバの IP アドレスを指定してください。
	-r resource_name	リクエストコードに GRP_FAILOVER を指定した 場合に、処理要求の対象となるグループに属する リソース名を指定します。
		GRP_FAILOVER を指定した場合、[-r] は省略 できません。
	-s script_file	リクエストコードに EXEC_SCRIPT を指定した 場合に、実行するスクリプト (バッチファイルや実行 可能ファイル等) のファイル名 (30 文字以内) を 指定します。スクリプトは [-h] で指定した各サーバ の CLUSTERPRO インストールフォルダ配下の work¥trnreq フォルダに作成しておく必要がありま す。
		EXEC_SCRIPT を指定した場合、[-s] は省略 できません。
	-w timeout	コマンドのタイムアウト値を秒単位で指定します。 指定可能な最小値は 5 秒です。
		[-w] オプションを指定しない場合、30 秒待ち合わ せます。

 戻り値
 0
 正常終了

 0
 以外
 異常終了

注意事項 本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

本コマンドを実行するサーバおよび [-h] で指定する IP アドレスの サーバには、内部バージョン 10.02 以降の Windows 版 CLUSTERPRO または内部バージョン 2.0.2-1 以降の Linux 版 CLUSTERPRO がセットアップされている必要があります。

実行例 例1: 他クラスタの appli1 リソースを持つグループを フェイルオーバ させる場合

clptrnreq -t GRP_FAILOVER -h 10.0.0.1,10.0.0.2 -r appli1

GRP_FAILOVER 10.0.0.1: Success

GRP_FAILOVER 10.0.0.2: Success

例 2: IP アドレス 10.0.0.1 のサーバにスクリプト scrpit1.bat を 実行させる場合

clptrnreq -t EXEC_SCRIPT -h 10.0.0.1 -s script1.bat

EXEC_SCRIPT 10.0.0.1: Success

—		-	
_ /	_ ^	· · · ·	
_ /		_	-

メッセージ	原因/対処
Log in as Administrator.	Administrator 権限を持つユーザで 実行してください。
Invalid option.	コマンドラインオプションが不正です。 正しいオプションを指定してください。
All servers are busy. Check if this command is already run.	既に本コマンドを実行している可能性があります。 確認してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が 考えられます。確認してください。
Command timeout	OS に負荷がかかっているなどの原因が 考えられます。確認してください。
Failed to obtain the list of nodes. Specify a valid server name in the cluster.	ノードリストの取得に失敗しました。 有効な IP アドレスを指定してください。
Could not connect to all data transfer server. Check if the server has started up.	指定された全ての IP アドレスに 接続できませんでした。 IP アドレスと対象サーバの状態を確認してください。
Could not connect to the data transfer server. Check if the server has started up.	指定された IP アドレスに接続できませんでした。 IP アドレスと対象サーバの状態を確認してください。
GRP_FAILOVER <i>IP</i> : Group that specified resource (<i>resource_name</i>) belongs is offline.	指定されたリソースが属するグループが対象サーバ で起動されていない為、フェイルオーバ処理は 行われませんでした。

メッセージ	原因/対処
EXEC_SCRIPT IP: Specified script(script_file)	指定したサーバにスクリプトが存在しません。
is not exist.	確認してください。
EXEC_SCRIPT <i>IP</i> :Specified script (<i>script_file</i>) is not executable.	指定したスクリプトが実行できませんでした。
	実行権限があるか確認してください。
<i>request_code IP</i> : This server is not permitted to execute clptrnreq.	コマンドを実行したサーバに実行権限がありません。 WebManager の接続制限の IP 一覧に登録されて いるか確認してください。
request_code IP : REQEST_TYPE failed in execute.	要求されたタイプの実行処理は失敗しました。
	(現在の要求は Failover または Script の何れかが 指定されます)
クラスタサーバに処理を要求する (clprexec コマンド)

clprexec

CLUSTERPRO がインストールされた他サーバへ処理実行を要求します。

コマンドライン:

clprexec --script script file -h IP [-p port number] [-w timeout] [-o logfile path] clprexec --notice [mrw name] -h IP [-k category[.keyword]] [-p port number] [-w timeout] [-o logfile path] clprexec --clear [mrw name] -h IP [-k category[.keyword]] [-p port number] [-w timeout] [-o logfile path] 従来の clptrnreq コマンドに外部監視から CLUSTERPRO サーバへ処 説明 理要求を発行する機能 (異常発生通知) などを追加したコマンドです。 --script オプション スクリプト実行要求を行います。 script_name scirpt_name には、実行するスクリプト (シェルス クリプトや実行可能ファイル等)のファイル名を指 定します。 スクリプトは ―h で指定した各サーバの CLUSTERPRO インストールディレクトリ配下の work¥trnreq ディレクトリ配下に作成しておく必要

があります。

--notice

CLUSTERPRO サーバへ異常発生通知を行います。

mrw_name には外部連携監視リソース名を指定 してください。

モニタリソース名を省略する場合、-k オプションで 外部連携監視リソースの監視タイプ, 監視対象を 指定してください。

clear	外部連携監視リソースのステータスを "異常" か ら "正常" へ変更する要求を行います。
	mrw_name には外部連携監視リソース名を指定 してください。
	モニタリソース名を省略する場合、-k オプションで 外部連携監視リソースの監視タイプ, 監視対象を 指定してください。
-h IP Address	処理要求発行先の CLUSTERPRO サーバの IP アドレスを指定してください。
	カンマ区切りで複数指定可能、指定可能な IP ア ドレス数は 32 個です。
	※ 本オプションを省略する場合、処理要求発行先 は自サーバになります。
-k category[.keyword]	[notice] または [clear] オプションを指定する 場合、[category] に外部連携監視リソースに設定 しているカテゴリを指定してください。
	外部連携監視リソースのキーワードを指定する 場合は、[category] のあとにピリオド区切りで指定 してください。
-p port_number	ポート番号を指定します。
	port_number に処理要求発行先サーバに設定さ れているデータ転送ポート番号を指定してくださ い。
	本オプションを省略した場合、デフォルト 29002 を 使用します。
-o logfile_path	logfile_path には、本コマンドの詳細ログを出力す るファイル path を指定します。
	ファイルにはコマンド 1 回分のログが保存されま す。
	※ CLUSTERPRO がインストールされていない サーバで本オプションを指定しない場合、標準出力 のみとなります。
-w timeout	コマンドのタイムアウトを指定します。指定しない 場合は、デフォルト 180 秒です。
	5~999 まで指定可能です。

戻り値	0	正常終了
	0 以外	異常終了

注意事項clprexec コマンドを使って異常発生通知を発行する場合、
CLUSTERPRO サーバ側で実行させたい異常時動作を設定した外部

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 4.0 for Windows 操作ガイド

連携監視リソースを登録/起動しておく必要がある。

コマンド実行時に、コマンドのバージョンを標準出力する。

--script オプションで指定された文字列に "¥"、"/" または ".." が含 まれているかどうかのチェックを行う。(相対path指定をNGとするため)

-h オプションで指定する IP アドレスを持つサーバは、下記の条件を満たす必要がある。

= CLUSTERPRO X3.0 以降がインストールされていること

= CLUSTERPRO 起動していること

= mrw が設定 / 起動されていること

[クライアント IP アドレスによる接続制限] が有効の場合、[clprexec] コマンドを実行する装置の IP アドレスを追加しておくこと。

[クライアント IP アドレスによる接続制限] の詳細は本ガイドの「第 1 章 WebManager の機能 WebManager の接続制限、操作制限を設 定する 使用制限の種類」を参照してください。

実行例 **例1:** CLUSTERPROサーバ1 (10.0.0.1) に対して、スクリプト (script1.sh) 実行要求を発行する場合

clprexec --script script1.bat -h 10.0.0.1

例2: CLUSTERPROサーバ1 (10.0.0.1) に対して異常発生通知を発 行する

※ mrw1 設定 監視タイプ: earthquake、監視対象: scale3

- 外部連携監視リソース名を指定する場合
- # clprexec --notice mrw1 -h 10.0.0.1 -w 30 -p
 /tmp/clprexec/ lprexec.log

- 外部連携監視リソースに設定されている監視タイプと監視対象を指 定する場合

clprexec --notice -h 10.0.0.1 -k earthquake,scale3
 -w 30 -p /tmp/clprexec/clprexec.log

例3: CLUSTERPRO サーバ1 (10.0.0.1) に対して mrw1 のモニタ ステータス変更要求を発行する

※ mrw1 の設定 監視タイプ: earthquake、監視対象: scale3

- 外部連携監視リソース名を指定する場合

clprexec --clear mrw1 -h 10.0.0.1

- 外部連携監視リソースに設定されている監視タイプと監視対象を指 定する場合

clprexec --clear -h 10.0.0.1 -k earthquake,scale3

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Success	-
Invalid option.	コマンドの引数を確認してください。

メッセージ	原因/対処
Could not connect to the data transfer servers.	指定した IP アドレスが正しいかまたは IP アドレス
Check if the servers have started up.	を持つサーバが起動しているか確認してください。
Could not connect to all data transfer server.	指定した IP アドレスが正しいかまたは IP アドレス
	を持つサーバが起動しているか確認してください。
Command timeout.	指定した IP アドレスを持つサーバで処理が
	完了しているか確認してください。
All servers are busy. Check if this command is	既に本コマンドが実行されている可能性があります。
already run.	確認してください。
Group (%s) is offline.	処理を要求したサーバで、グループが起動している
	か確認してください。
Group that specified resource(%s) belongs to is	処理を要求したサーバで、指定したリソースを含む
offline.	グループが起動しているか確認してください。
Specified script(%s) does not exist.	指定したスクリプトが存在しません。
%s %s : Specified resource(%s) is not exist.	指定したリソースもしくは監視リソースが
	存在しません。
%s %s : Specified resource(Category:%s,	指定したリソースもしくは監視リソースが
Keyword:%s) is not exist.	存在しません。
Specified group(%s) does not exist.	指定したグループが存在しません。
This server is not permitted to execute clprexec.	WebManager 接続制限のクライアント IP アドレス
	ー覧にコマンドを実行するサーバの IP アドレスが
	登録されているか確認してください。
%s failed in execute.	要求発行先の CLUSTERPRO サーバの状態を
	確認してください。

再起動回数を制御する(clpregctrl コマンド)

clpregctrl 再起動回数制限の制御を行います。

コマンドライン:

```
clpregctrl --get
clpregctrl -g
clpregctrl --clear -t type -r registry
clpregctrl -c -t type -r registry
```

説明 サーバ上で再起動回数の表示/初期化を行います。

オプション	-g,get	再起動回数情報を表示します。
	-c,clear	再起動回数を初期化します。
	-t type	再起動回数を初期化するタイプを指定します。指定可能 なタイプは rc または rm です。
	-r registry	レジストリ名を指定します。指定可能なレジストリ名は haltcount です。
戻り値	0	正常終了
	1	
	2	

2	二重起動
3	オプション不正
4	構成情報不正
10~17	内部エラー
20~22	再起動回数情報取得失敗
90	メモリアロケート失敗

注意事項 本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

実行例 再起動回数情報表示

clpregctrl -g

セクション || コマンドリファレンス

#

例 1、2 は、再起動回数を初期化します。

例1:グループリソース異常による再起動回数を初期化する場合

```
# clpregctrl -c -t rc -r haltcount
success.(code:0)
#
```

例2:モニタリソース異常による再起動回数を初期化する場合

```
# clpregctrl -c -t rm -r haltcount
success.(code:0)
#
```

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Command succeeded.	コマンドは成功しました。
Log in as Administrator.	コマンドの実行権がありません。 Administrator 権限を持つユーザで 実行してください。
The command is already executed.	コマンドは、既に実行されています。
Invalid option.	オプションが不正です。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が 考えられます。確認してください。

リソース使用量を予測する (clpprer コマンド)

Clpprer 入力ファイルに記載されているリソース使用量データの推移より、将来 的な値の推移を予測し、予測結果をファイルに出力します。また、予測 したデータのしきい値判定結果を確認することもできます。

コマンドライン:

clpprer -i <inputfile> [-o <outputfile>] [-p <number>] [-t <number> [-1]]

- 説明 与えられたリソース使用量データの傾向から将来値を予測します。
- オプション

 -i <inputfile> 将来の値を求めたいリソースデータを指定します。
 -0 予測結果を出力するファイル名を指定します。
 <outputfile>
 -p <number> 予測データ数を指定します。指定がない場合は、30件の 予測データを求めます。
 -t <number> 予測データと比較するしきい値を指定します。
 -1 [-t] オプションでしきい値の設定を行った場合のみ有効に なるオプションです。しきい値を下回った場合を異常と判 定します。

戻り値	0	しきい値判定を行わず正常終了した場合
	1	異常が発生した場合
	2	入力データがしきい値判定の結果、しきい値を超えたと 判断した場合
	3	予測データがしきい値判定の結果、しきい値を超えたと 判断した場合
	4	しきい値判定の結果、しきい値を超えていないと判断した 場合
	5	分析対象データ数が分析推奨データ数 (120) に足りて いない場合に、入力データがしきい値判定の結果、しき い値を超えたと判断した場合
	6	分析対象データ数が分析推奨データ数 (120) に足りて いない場合に、予測データがしきい値判定の結果、しき い値を超えたと判断した場合
	7	分析対象データ数が分析推奨データ数 (120) に足りて いない場合に、しきい値判定の結果、しきい値を超えて いないと判断した場合

セクション || コマンドリファレンス

注意事項 本コマンドは、システム監視リソース (System Resource Agent) のラ イセンスを登録している場合のみ利用することができます。(ライセンス が登録されていればクラスタ構成にシステム監視リソースを設定いただ く必要はありません。)

> オプション -i で指定するリソースデータファイルの入力データ数は最大 で 500 件となります。リソース使用量の予測にはある程度の入力デー タ数が必要となります。ただし、入力データ数が多い場合は分析に要す る処理時間も長くなるため、入力データ数は 120 件程度を推奨しま す。また、オプション -p に指定可能な出力データ数も最大で 500 件と なります。

> 入力ファイルの時刻データが昇順に並んでいない場合は正しく予測を行うことができません。入力ファイルには昇順に並んでいる時刻データを 設定してください。

入力ファイル 入力ファイルのフォーマットについて説明します。入力ファイルは予測結 果を取得したいリソース使用量について、下記のフォーマット通り記載し たファイルをご用意ください。

入力ファイルは CSV 形式で、1 個のデータを [日時,数値] の形で記載します。

また、日時のフォーマットは YYYY/MM/DD hh:mm:ss です。

ファイル例

2012/06/14 10:00:00,10.0	
2012/06/14 10:01:00,10.5	
2012/06/14 10:02:00,11.0	

実行例 将来の値の予測を簡単な例で説明します。

入力データで異常を検出した場合

入力データの最新の値がしきい値を超えていた場合は、異常と判断して戻り値 2 を返却しま す。入力データ数が推奨値 (=120) 未満の場合は戻り値 5 を返却します。



CLUSTERPRO X SingleServerSafe 4.0 for Windows 操作ガイド

予測データで異常を検出

予測データがしきい値を超えていた場合は、異常と判断して戻り値 3 を返却します。入力 データ数が推奨値 (=120) 未満の場合は戻り値 6 を返却します。



図 予測データで異常を検出

しきい値異常を検出しない

入力データ、予測データともにしきい値を超えなかった場合は、戻り値 4 を返却します。入力 データ数が推奨値 (=120) 未満の場合は戻り値 7 を返却します。



図 しきい値異常を検出しない

-| オプションを利用した場合

-1 オプションを利用した場合は、しきい値を下回った場合を異常と判定します。



実行例 フォーマットに指定された形式で記載されたファイルを準備し、clpprer コマンドを実行いただくことで予測結果を出力ファイルとして確認いた だくことができます。

> 入力ファイル test.csv 2012/06/14 10:00:00,10.0 2012/06/14 10:01:00,10.5 2012/06/14 10:02:00,11.0

clpprer -i test.csv -o result.csv

出力結果 result.csv 2012/06/14 10:03:00,11.5 2012/06/14 10:04:00,12.0 2012/06/14 10:05:00,12.5 2012/06/14 10:06:00,13.0 2012/06/14 10:07:00,13.5 :

また、オプションにしきい値を設定することで予測値のしきい値判定結 果をコマンドプロンプト上で確認することができます。

clpprer -i test.csv -o result.csv -t 12.5

実行結果

Detect over threshold. datetime = 2012/06/1410:06:00, data = 13.00, threshold = 12.5

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Normal state.	しきい値判定の結果、しきい値を超えるデータ はありませんでした。
Detect over threshold. datetime = %s, data = %s, threshold = %s	しきい値判定の結果、しきい値を超えるデータ を検出しました。
Detect under threshold. datetime = %s, data = %s, threshold = %s	-l オプションによるしきい値判定の結果、しき い値を下回るデータを検出しました。
License is nothing.	有効な System Resrouce Agent のライセン スが登録されていません。ライセンスを確認し てください。
Inputfile is none.	指定した入力データファイルが存在しません。

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 4.0 for Windows 操作ガイド

メッセージ	原因/対処法
Inputfile length error.	指定した入力データファイルのパスが長すぎ ます。1023 バイト以下で指定してください。
Output directory does not exist.	出力ファイルで指定されているディレクトリが 存在しません。指定したディレクトリが存在す るか確認してください。
Outputfile length error.	指定した出力ファイルのパスが長すぎます。 1023 バイト以下で指定してください。
Invalid number of -p.	-p オプションに指定した値が不正です。
Invalid number of -t.	-t オプションに指定した値が不正です。
Not analyze under threshold(not set -t).	-t オプションが指定されていません。-l オプ ションを使用する場合 -t オプションも指定し てください。
File open error [%s]. errno = %s	ファイルオープンに失敗しました。メモリ不足 や OS のリソース不足が考えられます。確認 してください。
Inputfile is invalid. cols = %s	入力データ数が正しくありません。入力データ 数は 2 件以上に設定してください。
Inputfile is invalid. rows = %s	入力データのフォーマットが正しくありません。 1 行は 2 列にする必要があります。
Invalid date format. [expected YYYY/MM/DD HH:MM:SS]	入力データの日付が不正なフォーマットになっ ています。データを確認してください。
Invalid date format. Not sorted in ascending order.	入力データの日時が昇順に並んでいません。 データを確認してください。
File read error.	入力データに不正な値が設定されています。 データを確認してください。
Too large number of data [%s]. Max number of data is %s.	入力データ数が最大値 (500) を超えていま す。データ数を減らしてください。
Input number of data is smaller than	入力データ数が分析推奨データ数 (120) よ り少ないです。
recommendable number.	※分析推奨データが少ない場合でも、分析は 行われます。
Internal error.	内部エラーが発生しました。

プロセスの健全性を確認する (clphealthchk コマン ド)

clphealthchk プロセスの健全性を確認します。

コマンドライン:

clphealthchk [-t pm | -t rc | -t rm | -t nm | -h]

注:本コマンドは、単一サーバ上でプロセスの健全性を確認します。健全性を確認したいサーバ上で実行する必要があります。

説明	単ーサーバ	単ーサーバ上でのプロセスの健全性を確認します。	
オプション	なし	pm/rc/rm/nm の健全性を確認します。	
	-t pm	pm の健全性を確認します。	
	-t rc	rc の健全性を確認します。	
	-t rm	rm の健全性を確認します。	
	-t nm	nm の健全性を確認します。	
	-h	Usage を出力します。	
豆し店	0	正常終了	
	1	<u>実行権限不正</u>	
	2	二重起動	
	3	初期化エラー	
	4	オプション不正	
	10	プロセスストール監視機能未設定	
	11	クラスタ未起動状態(クラスタ起動待ち合わせ中、クラスタ 停止処理中を含む)	
	12	クラスタサスペンド状態	
	100	健全性情報が一定時間更新されていないプロセスが存 在する	
	100	-t オプション指定時は、指定プロセスの健全性情報が一 定時間更新されていない	
	255	その他内部エラー	

実行例 例1:健全な場合 # clphealthchk

> pm OK rc OK rm OK nm OK **例 2:** clprc がストールしている場合 # clphealthchk pm OK rc NG rm OK nm OK # clphealthchk -t rc rc NG

例 3: クラスタが停止している場合 # clphealthchk The cluster has been stopped

- 備考 クラスタが停止している場合や、サスペンドしている場合にはプロセスは 停止しています。
- 注意事項 本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処				
Log in as Administrator.	コマンドの実行権がありません。Administrator 権 限を持つユーザで実行してください。				
Initialization error. Check if memory or OS	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられ				
resources are sufficient.	ます。確認してください。				
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。				
The function of process stall monitor is	プロセスストール監視機能が有効ではありませ				
disabled.	h_{\circ}				
The cluster has been stopped.	クラスタは停止状態です。				
The cluster has been suspended.	クラスタはサスペンド状態です。				
This command is already run.	本コマンドはすでに起動されています。				
Internal error. Check if memory or OS	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられ				
resources are sufficient.	ます。確認してください。				

クラスタ外からの操作による OS シャットダウン時の 動作を設定する (clpstdncnf コマンド)

clpstdncnf クラスタ外からの操作による OS シャットダウン時の動作を設定します。

```
コマンドライン:
clpstdncnf -e [time]
clpstdncnf -d
clpstdncnf -v
```

- 説明 クラスタ外からの操作による OS シャットダウン時の動作を設定します。
- オプション -e [*time*] OS シャットダウンが実行された際に、time で指定した時 間だけ、クラスタサービスの停止を待ち合わせるようにな ります。 time には、分単位で 1-1440 の値が指定できます。 初回実行時は必ず time を指定してください。 2 回目以降は time の指定を省略可能です。省略した場 合は、現在の設定値を使用します。 OS シャットダウンが実行された際に、クラスタサービスの -d 停止を待ち合わせないようになります。 設定内容を確認します。 -v 戻り値 0 正常終了 0 以外 異常終了
- 注意事項 本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

クラウド環境などの仮想化環境において、仮想化基盤側からゲスト OS のシャットダウンを実行した場合、ゲスト OS のシャットダウンに時間を要 すると、仮想化基盤側から強制的に仮想マシンの電源を停止することがあ ります。 実行例 例1: クラスタサービスの停止を最大で 30 分待ち合わせる場合

clpstdncnf -e 30
Command succeeded.
clpstdncnf -v
Mode : wait
Timeout : 30 min

例 2: クラスタサービスの停止を待ち合わせない場合

<pre># clpstdncnf -d</pre>
Command succeeded.
clpstdncnf -v
Mode : no wait
Timeout : 30 min

セクション III リリースノート

このセクションでは、CLUSTERPRO X SingleServerSafe の制限事項や、既知の問題とその回避策について説明します。

- 第 3 章 注意制限事項
- ・ 第4章 エラーメッセージー覧

第3章 注意制限事項

本章では、注意事項や既知の問題とその回避策について説明します。 本章で説明する項目は以下の通りです。

•	システム運用後	128
•	WebManager について	131

システム運用後

運用を開始した後に発生する事象で留意して頂きたい事項です。

回復動作中の操作制限

モニタリソースの異常検出時の設定で回復対象にグループリソース (アプリケーションリソース、 サービスリソース、…)を指定し、モニタリソースが異常を検出した場合の回復動作遷移中 (再 活性化 →最終動作) には、WebManager やコマンドによる以下の操作は行わないでください。

- ◆ クラスタの停止 / サスペンド
- ◆ グループの開始 / 停止

モニタリソース異常による回復動作遷移中に上記の制御を行うと、そのグループの他のグ ループリソースが停止しないことがあります。

また、モニタリソース異常状態であっても最終動作実行後であれば上記制御を行うことが可能 です。

コマンドリファレンスに記載されていない実行形式ファイルやスクリプト ファイルについて

インストールディレクトリ配下にコマンドリファレンスに記載されていない実行形式ファイルやス クリプトファイルがありますが、CLUSTERPRO X SingleServerSafe 以外からは実行しない でください。

実行した場合の影響については、サポート対象外とします。

CLUSTERPRO Disk Agent サービスについて

CLUSTERPRO Disk Agent サービスは CLUSTERPRO X SingleServerSafe では使用していません。CLUSTERPRO Disk Agent サービスは起動しないでください。

Windows Server 2012 以降の環境におけるユーザーアカウント制御の影響について

Windows Server 2012 以降では、既定値でユーザーアカウント制御 (User Account Control, 以下 UAC と略します) が有効となっています。UAC が有効となっている場合、下 記の機能に影響があります。

モニタリソース

下記のモニタリソースに影響があります。

Oracle 監視リソース

Oracle 監視リソースにおいて「認証方式」を [OS 認証] とした場合、監視ユーザに Administrators グループ以外のユーザが設定されていると、Oracle 監視の処理は失 敗します。

「認証方式」に [OS 認証] を設定する場合は、「監視ユーザ」に設定するユーザは Administrators グループに属するようにしてください。

アプリケーションリソース / スクリプトリソースの画面表示について

CLUSTERPRO のアプリケーションリソース・スクリプトリソースから起動したプロセスはセッション 0 で実行されるため、GUI を持つプロセスを起動した場合、「対話型サービス ダイアロ グの検出」ポップアップが表示され、このポップアップで「メッセージを表示する」を選択しないと GUI が表示されません。

ネットワークインターフェイスカード (NIC) が二重化されている環境について

NIC が二重化されている環境の場合、OS 起動時の NIC の初期化に時間がかかることが あります。初期化が完了する前にクラスタが起動すると、カーネルモード LAN ハートビートリ ソース (lankhb) の起動に失敗することがあります。この場合、NIC の初期化が完了しても、 カーネルモード LAN ハートビートリソースの状態は正常に戻りません。この状態から復旧さ せるためには、クラスタをサスペンドした後、クラスタをリジュームする必要があります。

また、上記の現象を回避するためにネットワーク初期化完了待ち時間の設定、または ARMDELAY コマンドでクラスタの起動を遅らせることを推奨します。

- ◆ ネットワーク初期化完了待ち時間 クラスタを構成する全サーバで共通の設定です。設定した時間に達していない場合で も、ネットワークの初期化が完了すると、クラスタの起動を開始します。
- ◆ ARMDELAY コマンド クラスタを構成する各サーバの個別の設定です。設定した時間に達していない場合、 ネットワークの初期化が完了しても、クラスタの起動を開始しません。

ネットワーク初期化完了待ち時間、ARMDELAY コマンドの詳細については、『リファレンスガ イド』を参照してください。

CLUSTERPRO のサービスのログオンアカウントについて

CLUSTERPRO のサービスのログオンアカウントは [ローカル システム アカウント] に設定 されています。このログオンアカウントの設定を変更すると、クラスタとして正しく動作しない可 能性があります。

CLUSTERPRO の常駐プロセスの監視について

プロセスを監視するようなソフトウェアにより、CLUSTERPROの常駐プロセスを監視すること 自体には問題はありませんが、プロセスの異常終了時などにプロセスの再起動などの回復動 作は行わないでください。

セクション III リリースノート

JVM 監視リソースについて

- ◆ 監視対象の Java VM を再起動する場合は JVM 監視リソースをサスペンドするか、 クラスタ停止を行った後に行ってください。
- ◆ 設定内容を変更時にクラスタサスペンドおよびクラスタリジュームを行う必要があります。
- ◆ モニタリソースの遅延警告には対応していません。

システム監視リソースについて

- ◆ 設定内容を変更時にクラスタサスペンドを行う必要があります。
- ◆ モニタリソースの遅延警告には対応していません。
- ◆ 動作中に OS の日付/時刻を変更した場合、10 分間隔で行っている解析処理のタイ ミングが日付 / 時刻変更後の最初の 1 回だけずれてしまいます。以下のようなこと が発生するため、必要に応じてクラスタのサスペンド・リジュームを行ってください。
 - 異常として検出する経過時間を過ぎても、異常検出が行われない。
 - 異常として検出する経過時間前に、異常検出が行われる。
- ◆ ディスクリソース監視機能で同時に監視できる最大のディスク数は26台です。

[対話型サービスダイアログの検出]ポップアップ表示について

アプリケーションリソース/スクリプトリソースの[デスクトップとの対話を許可する]を設定し、[対話型サービスダイアログの検出]ポップアップを表示させるには「Interactive Service Derection」サービスが起動している必要があります。

既定値で「Interactive Service Derection」サービスの起動が無効となっているため、以下の 手順に従い有効化してください。

参考:http://msdn.microsoft.com/en-us/library/windows/desktop/ms683502(v=vs.85).aspx

→[Using an Interactive Service]

WebManager について

- ♦ WebManager で表示される内容は必ずしも最新の状態を示しているわけではありません。
 最新の情報を取得したい場合、ツールバーの [リロード] アイコン、または [ツール] メニューの [リロード] をクリックして最新の内容を取得してください。
- ♦ WebManager が情報を取得している間にサーバダウンが発生すると、情報の取得に失敗し、一部オブジェクトが正しく表示されない場合があります。 次回の自動更新まで待つか、ツールバーの [リロード] アイコン、または [ツール] メニューの [リロード] をクリックして最新の内容を再取得してください。
- ◆ ログ収集は、複数の WebManager から同時に実行できません。
- ◆ 接続先と通信できない状態で操作を行うと、制御が戻ってくるまでしばらく時間がかかる 場合があります。
- ◆ マウスカーソルが処理中を表す腕時計や砂時計になっている状態で、ブラウザ外にカー ソルを移動すると、処理中であってもカーソルが矢印の状態に戻ってしまうことがあります。
- ◆ Proxy サーバを経由する場合は、WebManager のポート番号を中継できるように、 Proxy サーバの設定をしてください。
- ◆ Reverse Proxy サーバを経由する場合、WebManager は正常に動作しません。
- ◆ CLUSTERPRO X SingleServerSafe のアップデートを行った場合は、ブラウザを終了し、 Javaのキャッシュをクリアしてからブラウザを再起動してください。
- ◆ WebManager に接続するクライアントPCが、Java(TM) Runtime Environment Version 8.0 Update 162 以降を利用しており、かつインターネットに接続できない場合、 WebManager の起動に時間がかかる場合があります。Java コントロールパネルの詳細 設定で[証明書失効チェックを実行]を[チェックしない]に設定することで回避可能です。設 定方法の詳細はJava の Web サイトをご確認ください。
- ♦ Web ブラウザを終了すると (メニューの [終了] やウィンドウフレームの [X] 等)、確認 ダイアログが表示されます。



注: JavaScript を無効にしている場合、本画面は表示されません。

 ◆ Web ブラウザをリロードすると (メニューの [最新の情報に更新] やツールバーの [現 在のページを再読み込み] 等)、確認ダイアログが表示されます。

 このページからほかのページに移動しますか? 未反映の構成情報は破棄されます。 続行するには [OK] をクリックし、現在のページから移動しない場合 は [キャンセル] をクリックしてください。 	
OK キャンセル 設定を続行する場合は [キャンセル] を選択してください。	

注: JavaScript を無効にしている場合、本画面は表示されません。

第4章 エラーメッセージー覧

本章では、CLUSTERPRO X SingleServerSafe 運用中に表示されるエラーメッセージの一覧について説明します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

•	イベントログ、アラートメッセージ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	134	4
---	--	-----	---

イベントログ、アラートメッセージ

イベントログやアラートに出力されるメッセージは、CLUSTERPRO X と共通になっています。 これらのメッセージの詳細については、CLUSTERPRO X の『リファレンスガイド』を参照してく ださい。

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 独自メッセージは以下の通りです。

モジュー ルタイプ	ベナ 類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	Alert	Eventlog	Userlog
SSS	エラー	20004	システムドライブ文字 の取得が失敗しまし た。	システムドライブ文字 の取得が失敗しまし た。	システムが正しく動作 できない状態になって いる可能性がありま す。			•
SSS	エラー	20005	サーバ名の取得が失 敗しました。	サーバ名の取得が失 敗しました。	システムが正しく動作 できない状態になって いる可能性がありま す。			•
SSS	情報	20006	サーバ名が更新され ました。	サーバ名が更新され ました。	_	•		•
SSS	エアー	20007	コンフィグファイルの更 新が失敗しました。	コンフィグファイルの更 新が失敗しました。	構成情報を確認してく ださい。	•		•
SSS	情報	20008	コンフィグファイルが更 新されました。	コンフィグファイルが更 新されました。	_			•
SSS	エラー	20009	コンフィグファイルの内 容が不正です。	コンフィグファイルの内 容が不正です。	構成情報を確認してく ださい。			•
SSS	エラー	20010	%1サービスが開始で きませんでした。	%1サービスが開始で きませんでした。	システムが正しく動作 できない状態になって いる可能性がありま す。	•		•
SSS	情報	20012	〜〜ービスが開始さ れました。	〜〜ービスが開始さ れました。	_			•

モジュー ルタイプ	イベ ント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	Alert	Eventlog	Userlog
SSS	情報	20013	%1サービスが停止さ れました。	%1サービスが停止さ れました。	_			•
SSS	情報	20014	LANボードの二重化 モジュールが起動され ました。	LANボードの二重化 モジュールが起動され ました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考え られます。確認してく ださい。			•
SSS	エラー	20015	LANボードの二重化 モジュールが起動され ませんでした。	LANボードの二重化 モジュールが起動され ませんでした。	_	•		•
ncctl	エラー	20101	LANボード%1の異常 を検出しました。	LANボード%1の異常 を検出しました。	待機中のLANボード の設定が適切である かどうか確認してくだ さい。	•		•
ncctl	黎言 七口	20102	LANボード%1をLAN ボード%2に切り替え ます。	LANボード%1をLAN ボード%2に切り替え ます。	_	•		•
ncctl	エラー	20103	LANボード%1の操作 に失敗しました。	LANボード%1の操作 に失敗しました。	_	•		•

付録

• 付録 A 索引

付録A

索引

С

CPUクロックを制御, 104

D

Disk Agent サービス, 128

J

JVM監視リソース, 130

W

WebManager, 16, 131 WebManager の画面, 15, 18 WebManager の起動, 16, 17 WebManager を手動で停止/開始, 15, 50 WebManager を利用したくない場合, 50

あ

アラートの検索、19, 21, 47, 48 アラートビューの各フィールド, 47 アラートビューの操作, 48 アラートメッセージ, 134 アラートを確認, 15, 20, 21, 47, 95

い

イベントログ, 133, 134

か

回復動作中の操作制限,128 各オブジェクトの状態を確認,15,19,29 画面レイアウトを変更,19,25,27

き

緊急OSシャットダウン時の情報採取,73

<

クラスタ間連携を行う、55、106 クラスタサーバに処理を要求、109 グループリソースを制御、55、101 グループを操作、55、66

J

構成情報の反映, 55, 74 構成情報バックアップ, 55, 74 構成情報をバックアップ,77 構成情報を反映するクラスタ生成コマンド,74 コマンド,55,56 コマンドラインから操作,55,56

さ

サーバ全体の状態を確認,45 サーバをシャットダウン,55,65 サービスの操作,27 サービスを操作,55,61,65 再起動回数を制御,113

し

時刻情報を確認,19,25 実行形式ファイル,128 実行できる操作,29 使用制限の種類,50 状態を表示,55,58 情報を最新に更新,19,24

す

スクリプトファイル, 128

せ

接続制限,15,50,111 全体の詳細情報をリスト表示,39

そ

操作制限, 15, 50, 111

た

タイプを指定したログの収集,71 タイムアウトを一時調整,79 対話型サービスダイアログの検出ポップアップ表示, 130

っ

ツリービュー, 15, 19, 29

لح

動作モード, 19, 20 特定グループリソースのオブジェクト, 33 特定サーバの状態を確認, 45

ふ

プロセスの健全性を確認, 55, 120

め

メイン画面, 18 メッセージを出力, 95

ŧ

モニタ全体の状態を確認,46 モニタリソースのオブジェクト,36 モニタリソースを制御,55,97

6

ライセンスを確認,27 ライセンスを管理,90

り

リストビュー, 15, 20, 39 リソース使用量を予測, 55, 115

ろ

ログ収集サーバ指定,73 ログファイルの出力先,72 ログレベル/サイズを変更,82 ログを収集,19,22,55,69